

—2022年度 一宮の教育白書—

ゆとりある
ゆきとどいた
教育の実現にむけて



一宮市教職員組合

はじめに

子どもたちを取り巻く社会状況は、グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、大きく変化しています。そして、子どもたちの生活環境は、これらが絡み合いながら変化しており、その変化によって生じる私たちが解決すべき課題も複雑化・多様化しています。

学校現場においても、GIGAスクール構想による一人一台端末の導入により、子どもたちの学びが大きく変わろうとしています。

このような状況のもと、私たち教師は、未来を担う子どもたちの健やかな成長をめざして、たゆまぬ努力を続ける必要があります。一方で、子どもたち一人一人との心のふれあいを大切にし、生き生きとした教育活動を進めるためには、私たち教師の心のゆとりと健康も大変重要です。

私たち一宮教組は、一宮の教育に責任を持つ組合として、常に子どもを中心にすえ、ゆとりとふれあいのある教育をめざして活動をしております。今後も教育現場でのさまざまな課題を解決し、一宮の教育をどのように進めていけばよいのか、私たちは互いに知恵を出し合い、議論を深めていかなければなりません。その一助として、この白書を活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、白書発行にあたり、ご尽力いただきました編集委員の方々、分会長、組合員の皆様方に対し、深く感謝申し上げます。

2022年11月

一宮市教職員組合執行委員長
本 田 祐 也

「教育に関する意識・実態調査」有効回答者数

小学校	42校の教員	719名
中学校	19校の教員	337名
	総数	1,056名

ゆとりある ゆきとどいた 教育の実現にむけて

I	子どもをとりまく教育課題とその解消にむけて	
1	子どもをとりまく教育環境について	1
	(1) 配置してほしい教職員	
	(2) 改善してほしい施設・設備	
	(3) エアコンを設置してほしい特別教室	
	(4) Wi-Fiを設置してほしい特別教室	
2	特別支援教育について	3
	(1) 発達障害のある子どもたちへの対応について、大きな課題としてとらえていること	
	(2) 特別支援教育の充実にむけて必要と思われること	
II	教員の実態	
1	勤務時間外にする仕事	4
	(1) 平日に行った仕事	
	(2) 休日に行った仕事	
	(3) 勤務時間外に行った仕事の1か月あたりの平均	
	(4) 勤務時間外に行った主な仕事の内容	
2	多忙化の実態	6
	(1) 職場の多忙化	
	(2) 職場の多忙化解消のために望むこと	
3	教員としての力量向上にむけて	7
	(1) 日頃から必要だと思うこと	
	(2) 参加したい研修内容	
	(3) 出張や研修のオンライン化を望む声	
4	免許教科外担当の人数とその割合	8
5	心身の健康状態	8
	(1) 現在の健康状態	
	(2) ストレスの状態	
	(3) 高ストレス者と診断された場合の面接指導希望の有無	
6	休暇の取得状況	10
	(1) 長期休業中を除き、取得した年次休暇や特別休暇・家族休暇の日数	
	(2) 休暇の取得のしやすさ	
7	部活動指導について	11
	(1) 現行の状態では、来年度も部活動を続けたいと思うか	
	(2) 部活動をしたくない理由	
	(3) 休日の部活動指導に参加したいと思うか	
8	プール運営について	11
	(1) プール清掃の業者が入り、職員の負担はなくなったか	
	(2) プール清掃はいつ行っているか	
	(3) プール清掃は誰が行っているか	
	(4) 監視員は誰が行っているか	
	(5) クラスは何時間プールの授業を行ったか	
9	教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）について	13
	(1) 自校に教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）はいるか	
	(2) 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）は、どのような業務を行っているか	
	(3) 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）について、今後どのような業務を行ってほしいか	
10	小学校高学年の教科担任制について	14

女性部

I	健康でいきいきと働き続けるために	
1	女性教師の構成	15
	(1) 女性教師の年齢別構成	
	(2) 退職状況	
2	家族とのかかわりの中で	16
	(1) 介護のための制度	
	(2) 家族休暇	
	(3) 妻の出産補助休暇・育児参加休暇	
	(4) 子育てにかかわる制度	
3	命を産み育てる母親として	20
	(1) 体育実技授業の負担軽減措置の行使	
	(2) 不妊治療	
II	ゆきとどいた保健活動をするために	
1	養護教諭の職務の現状	22
	(1) 学校の規模と複数配置の様子	
	(2) 保健室利用状況	
	(3) 養護教員の時間外勤務状況	
	(4) 単数配置の養護教員が困っていること	
	(5) 複数配置になって可能になったこと	
	(6) 食物アレルギー対応	
	(7) 健康教育でのかかわり	
	(8) 医師・看護師派遣	

青年部

I	子どもたちの健やかな成長のために	30
1	子どもたちの健やかな成長のために、大切にしていること	
2	子どもへの指導で、悩んだり困ったりしていること	
3	子どもたちの健やかな成長のために、今後必要と思われる教育条件整備	
II	青年教員がいきいきと働くために	31
1	日々の教育活動を行う上での悩みや不安	
2	校内で悩みや不安を相談できるか	
3	経験の少ない青年教員がサポートを得て、いきいきと働くために望むこと	
III	スポーツ・文化的活動のあり方について	32
1	部活動の指導を負担に感じることもあるか	
2	部活動の指導にあたり負担に感じること	
3	今後の部活動のあり方として望むこと	
4	外部指導者や部活動指導員と部活動の指導を行った経験の有無	
5	外部指導者や部活動指導員がいたことでよかったこと	
6	外部指導者や部活動指導員の配置、運用などについて、課題としてとらえていることや意見	
7	外部指導者や部活動指導員の配置にあたって、必要であると考えること	
8	「総合型地域スポーツクラブ」の充実にもつて望むこと	
9	地域部活動の指導に携わろうと思うか	
10	部活動の兼職兼業について、今後望むこと	

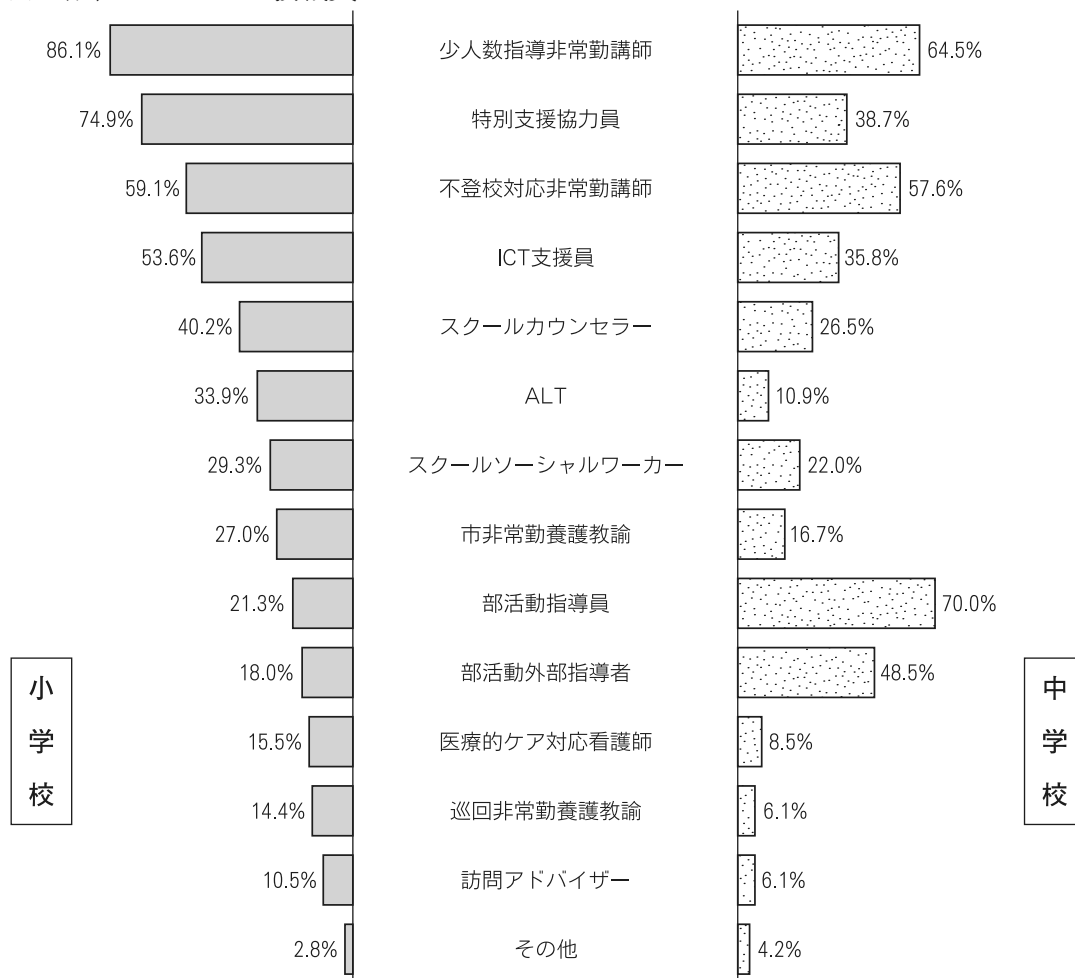
資料

1 一宮市一般会計予算と教育予算の推移	36
(1) 一般会計予算と教育予算の推移	
(2) 2022年度一般会計予算内訳	
2 学級数別学校数	37
3 学年別児童・生徒数	37
4 教員男女比	38

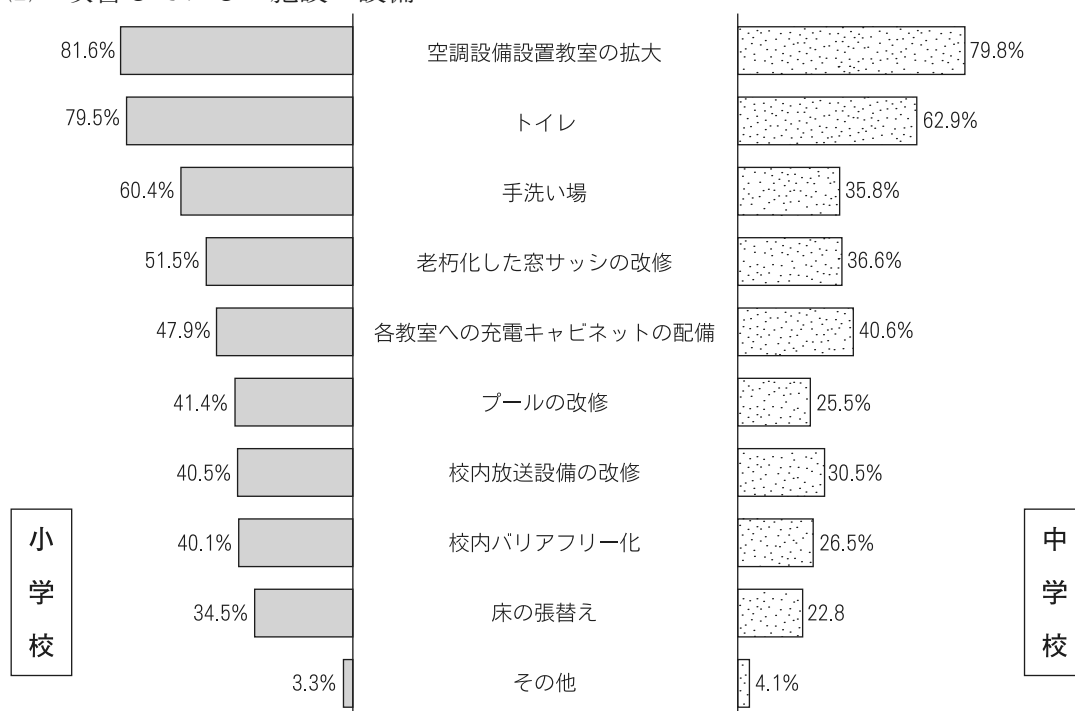
I 子どもをとりまく教育課題とその解消にむけて

1 子どもをとりまく教育環境について

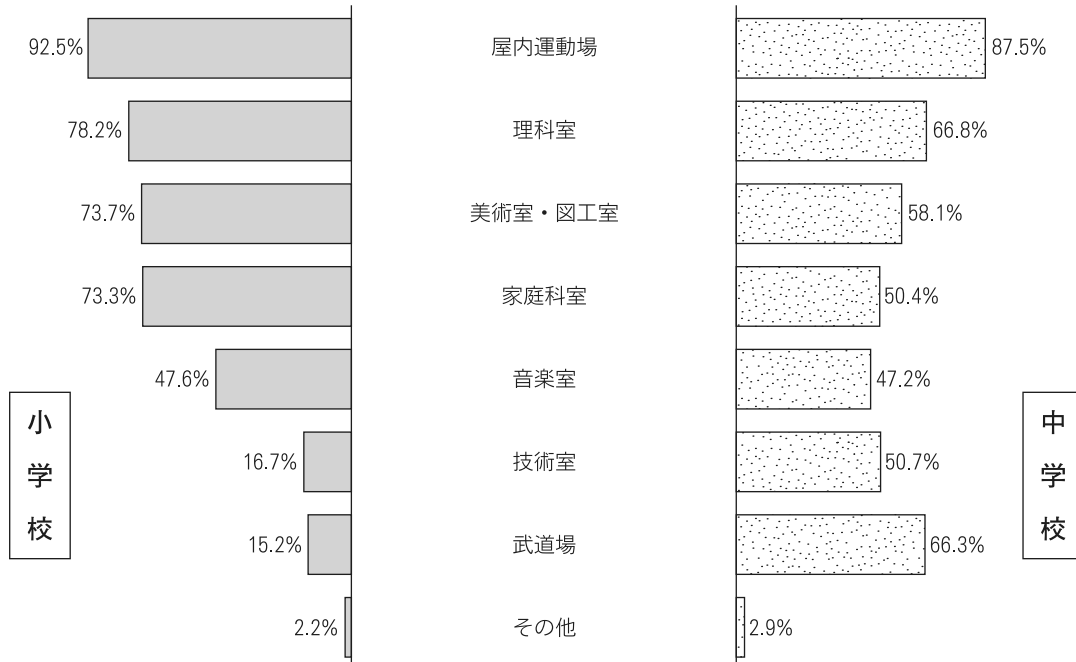
(1) 配置してほしい教職員



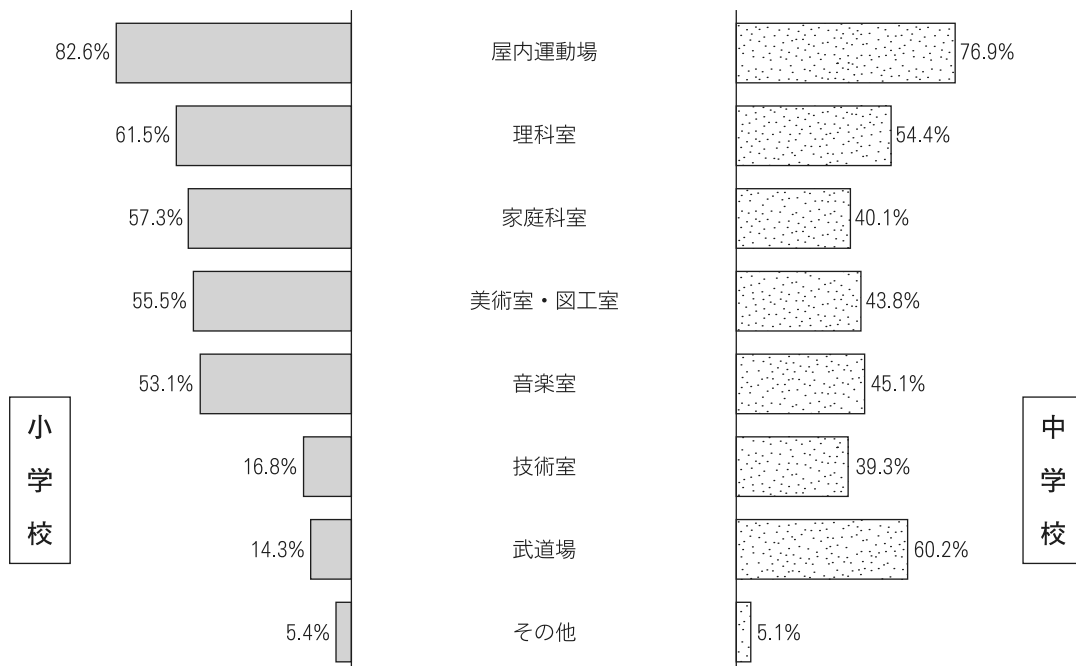
(2) 改善してほしい施設・設備



(3) エアコンを設置してほしい特別教室

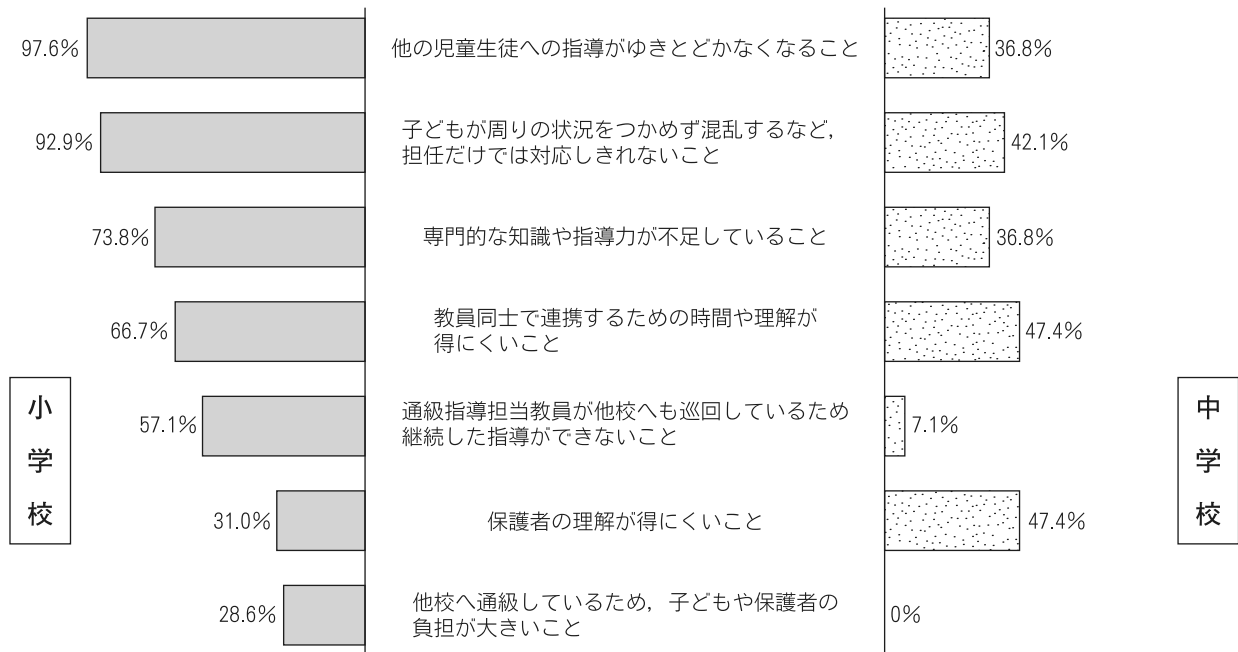


(4) Wi-Fiを設置してほしい特別教室

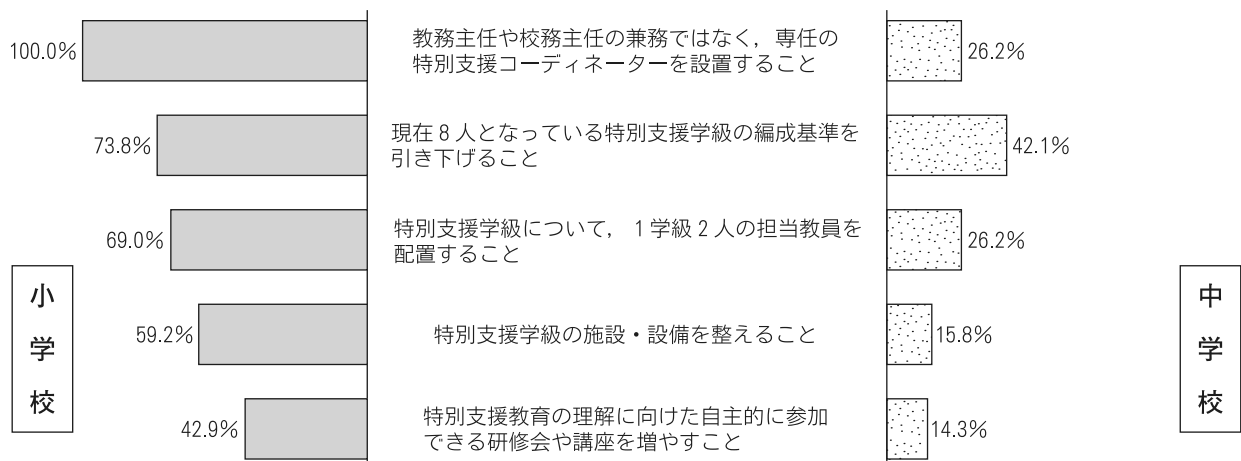


2 特別支援教育について

(1) 発達障害のある子どもたちへの対応について、大きな課題としてとらえていること
(複数回答)



(2) 特別支援教育の充実に向けて必要と思われること (複数回答)

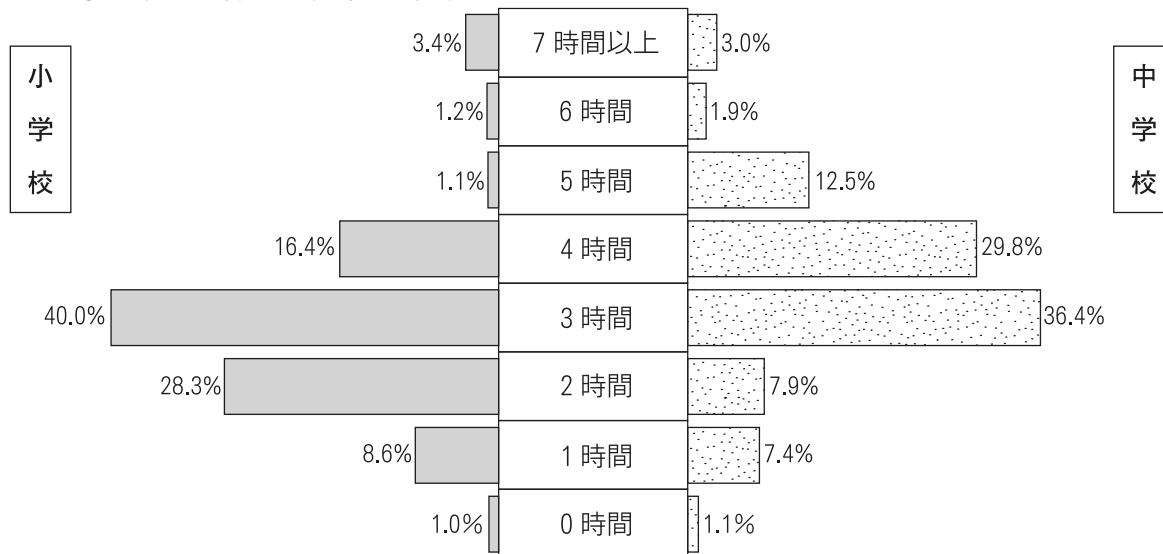


II 教員の実態

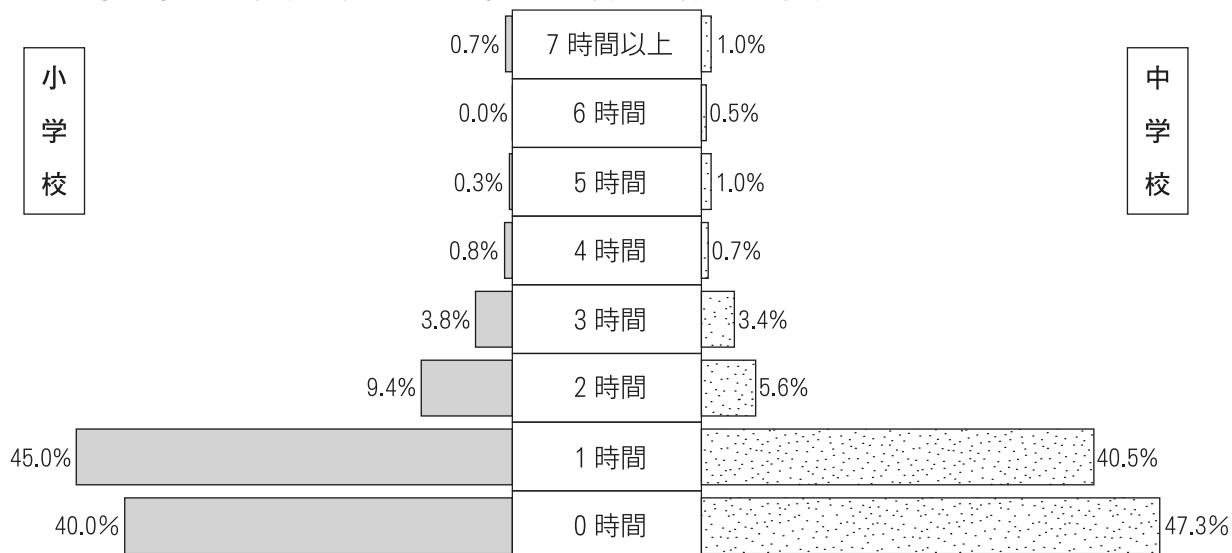
1 勤務時間外にする仕事

(1) 平日に行った仕事

① 平日に行った仕事の時間

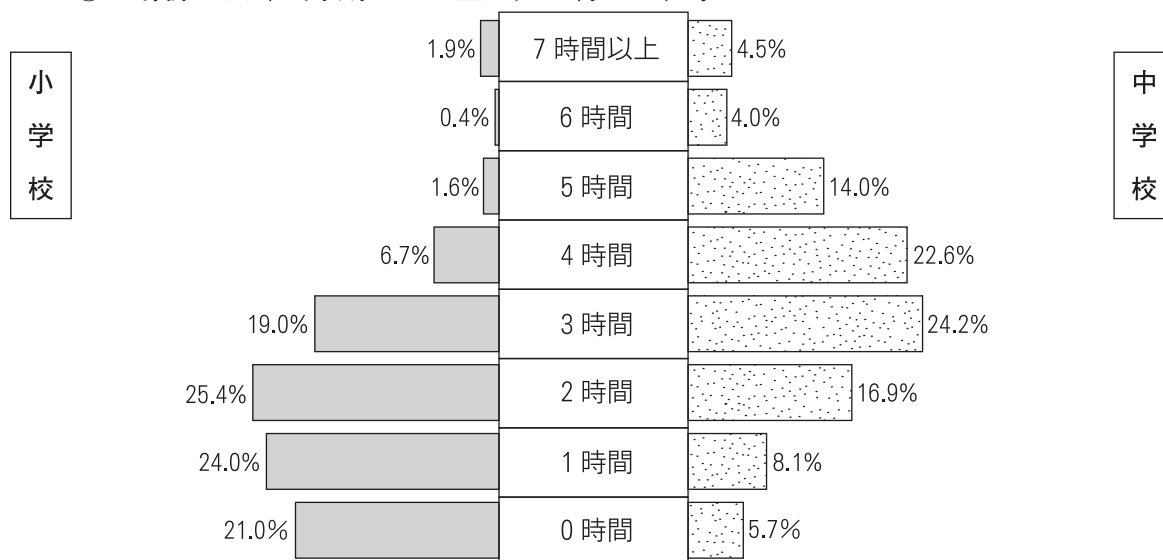


② ①で0時間以外を選んだ方のうち自宅で行った時間

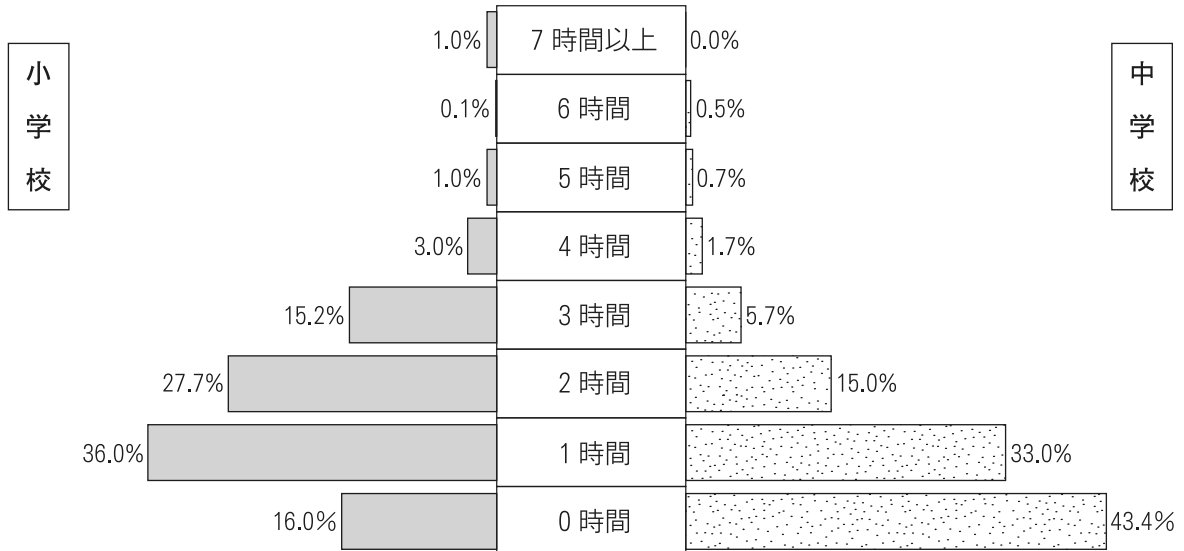


(2) 休日に行った仕事

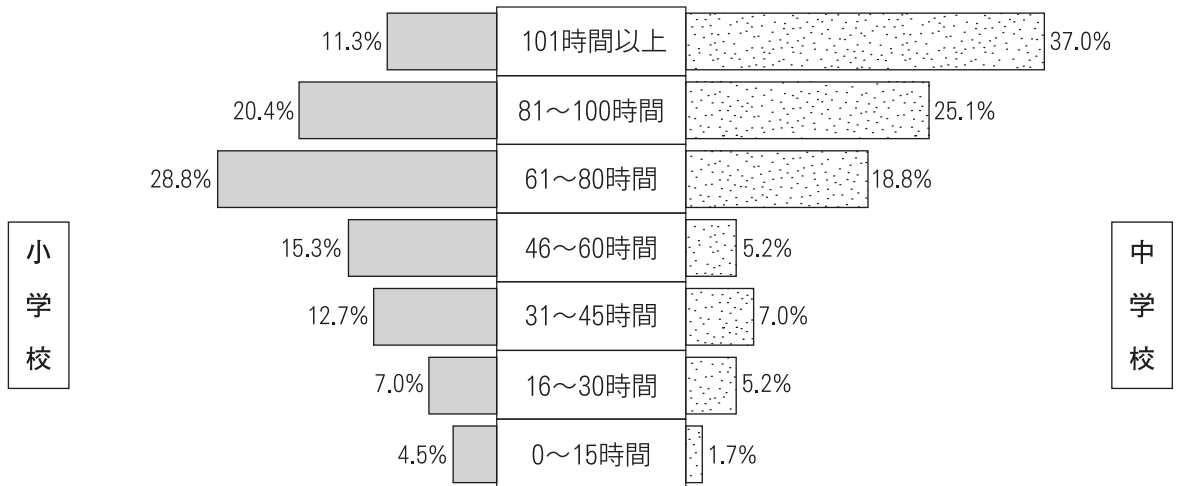
① 勤務日以外（原則として土日）に行った仕事



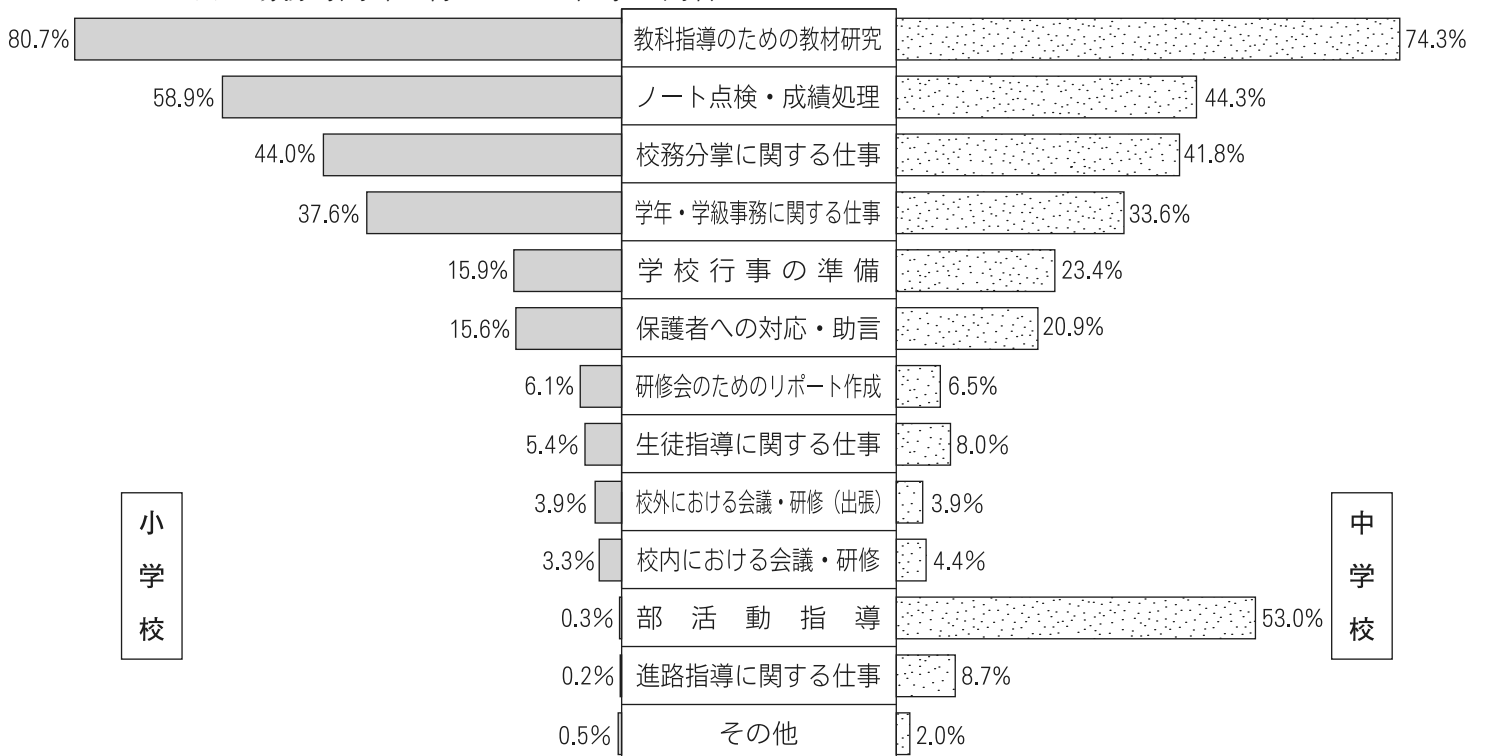
② ①で0時間以外を選んだ方のうち自宅で行った時間



(3) 勤務時間外に行った仕事の1か月あたりの平均
【 平日の平均 × 20日 + 休日の平均 × 10日 】

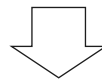
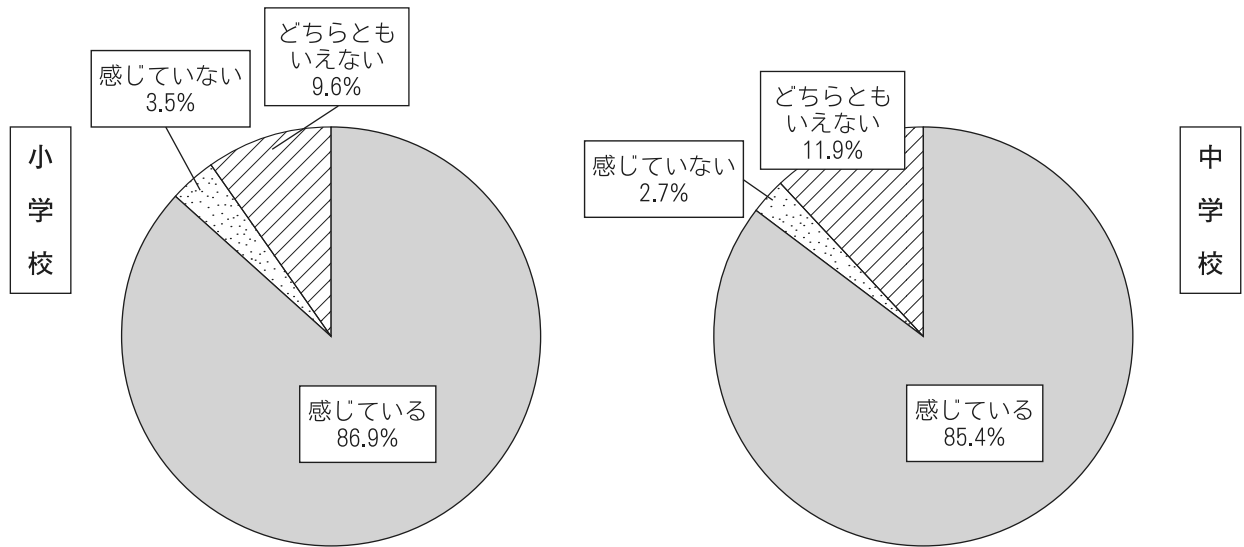


(4) 勤務時間外に行った主な仕事の内容

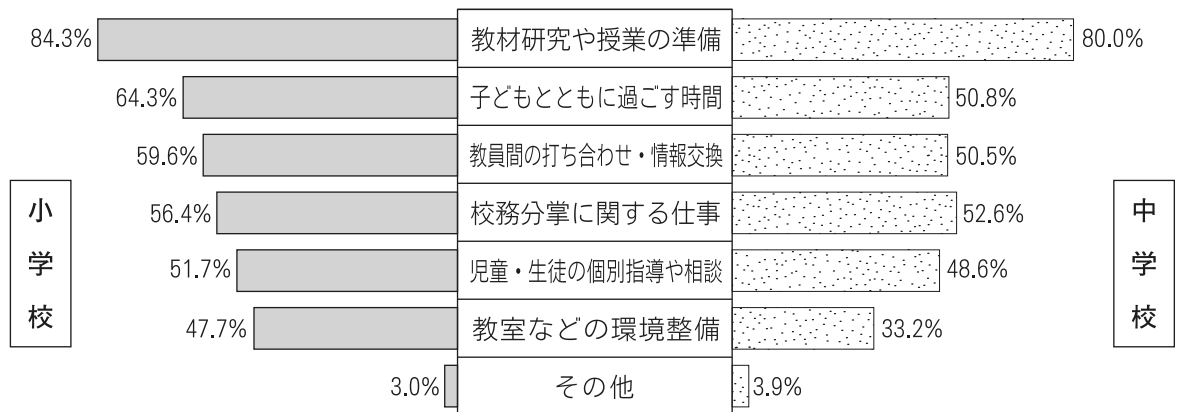


2 多忙化の実態

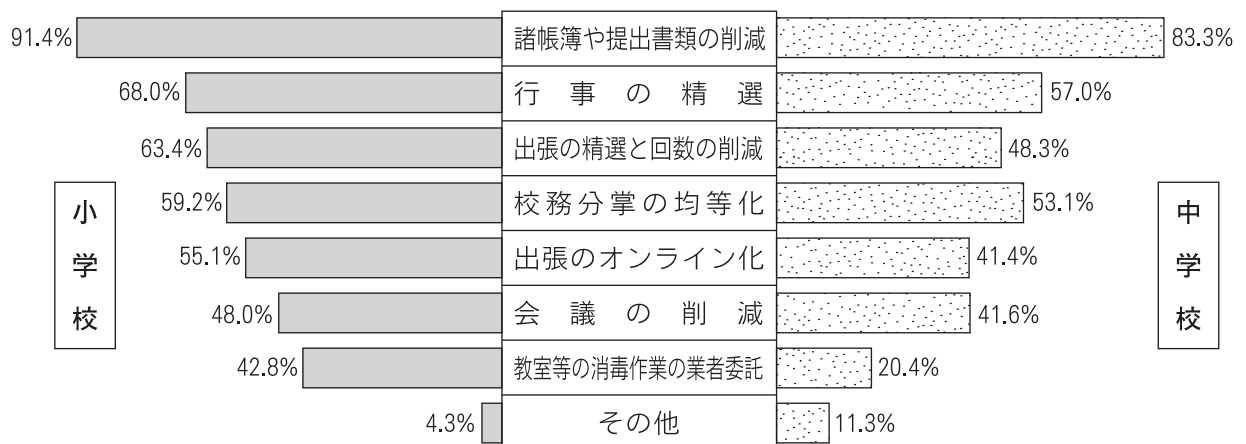
(1) 職場の多忙化



多忙化のために十分にとることができない時間（複数回答）
 （「感じている」の回答数中の割合）



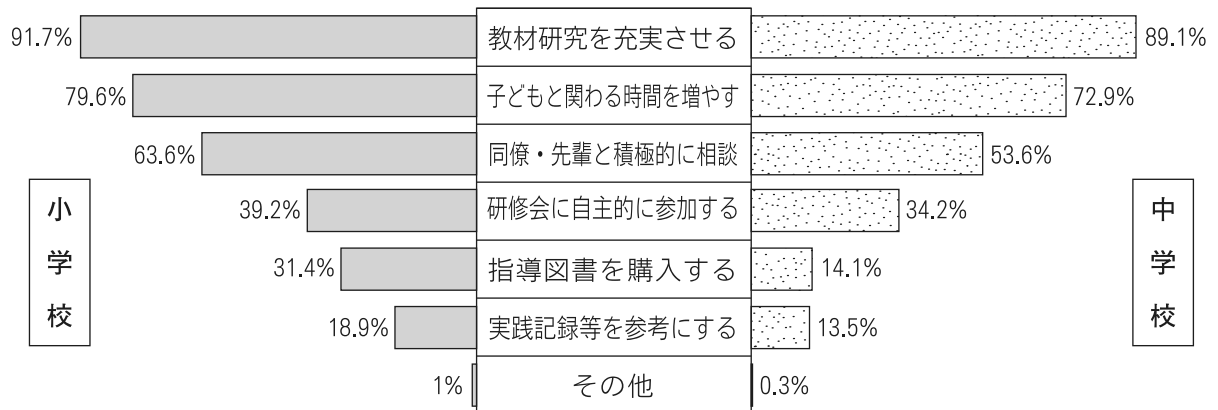
(2) 職場の多忙化解消のために望むこと（複数回答）



3 教員としての力量向上にむけて

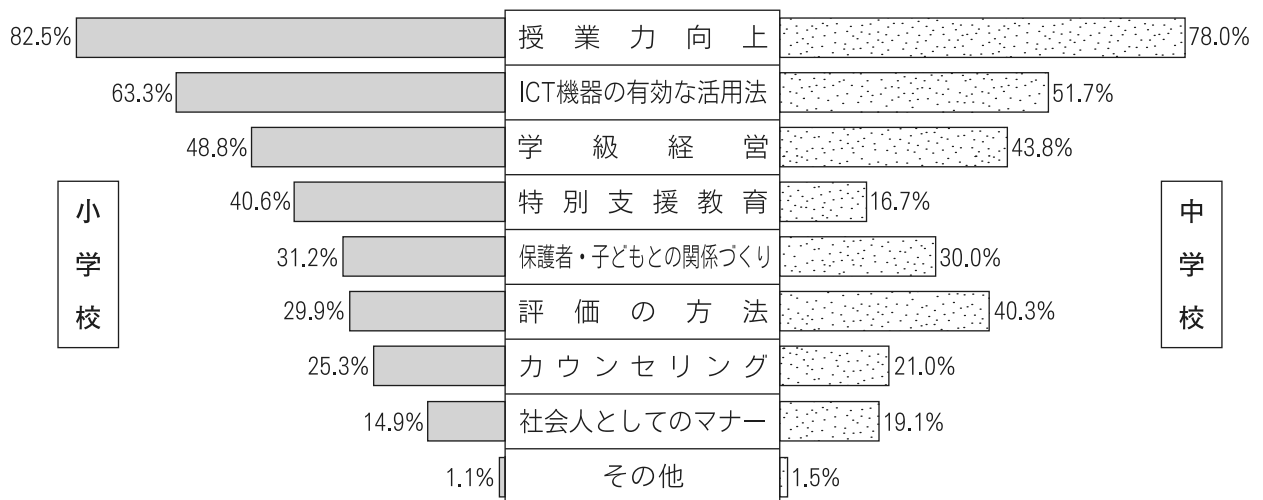
(1) 日頃から必要だと思うこと（複数回答）

最も必要だと思うもの

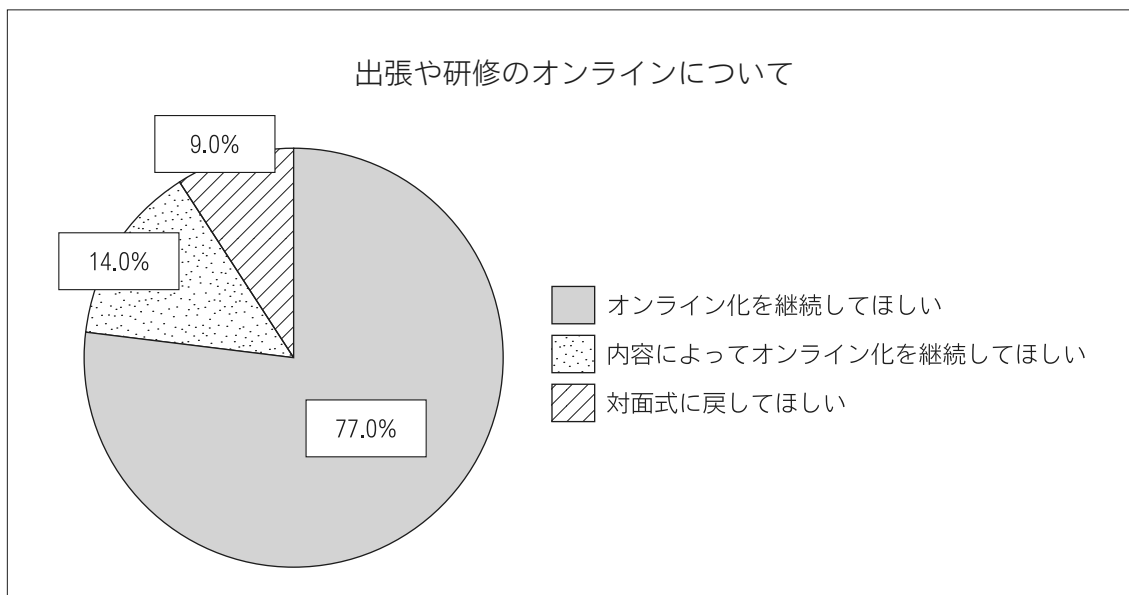


(2) 参加したい研修内容（複数回答）

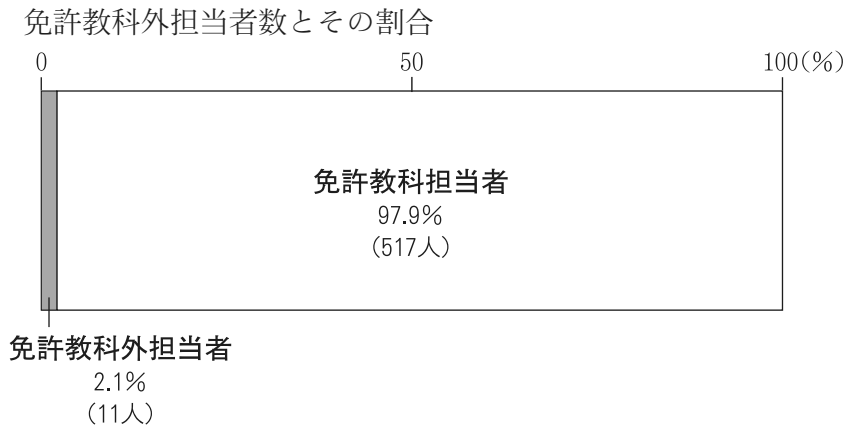
最も参加したい研修内容



(3) 出張や研修のオンライン化を望む声

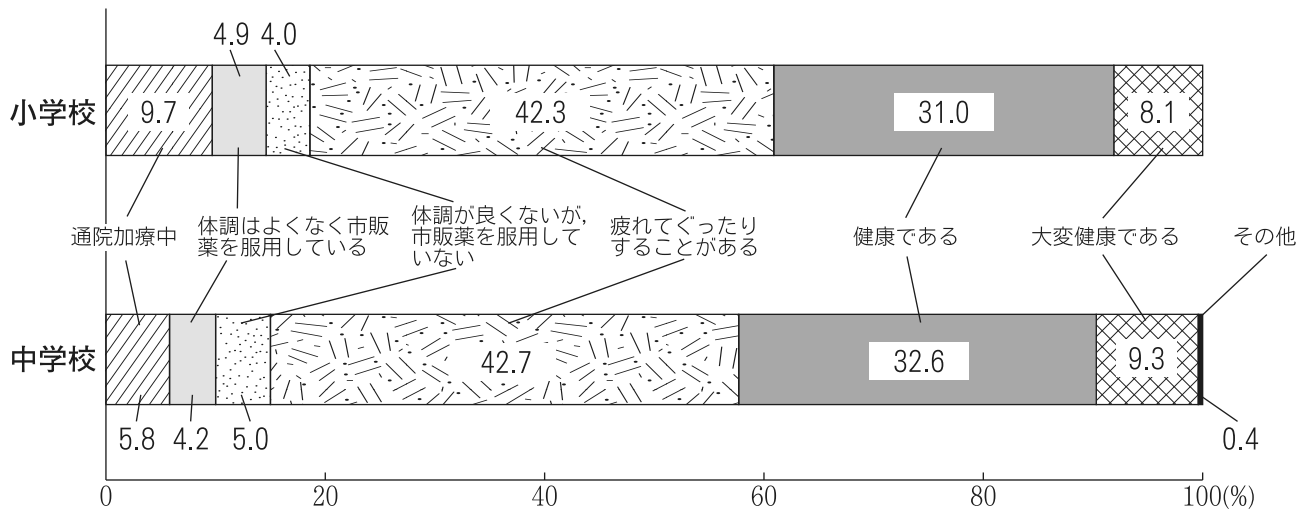


4 免許教科外担当（中学校）

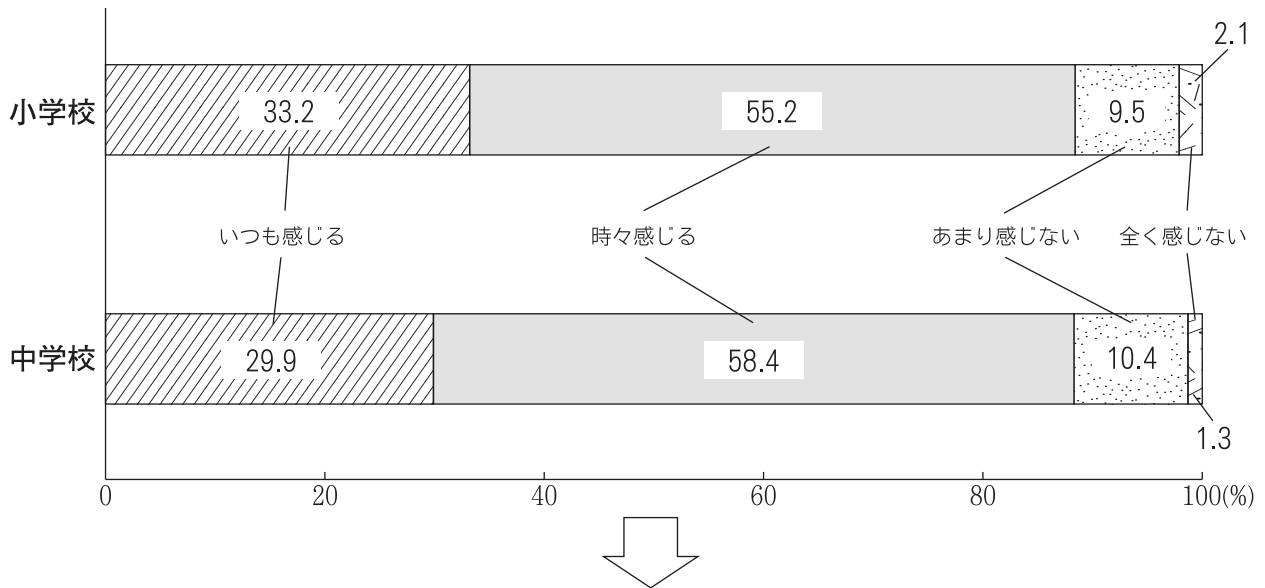


5 心身の健康状態

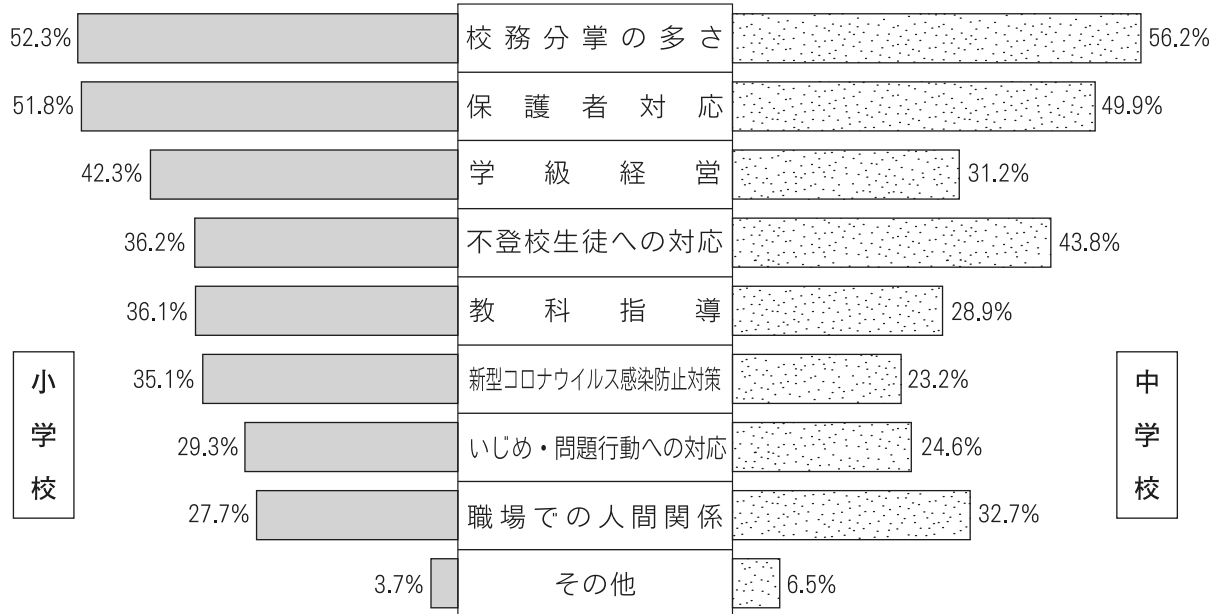
(1) 現在の健康状態



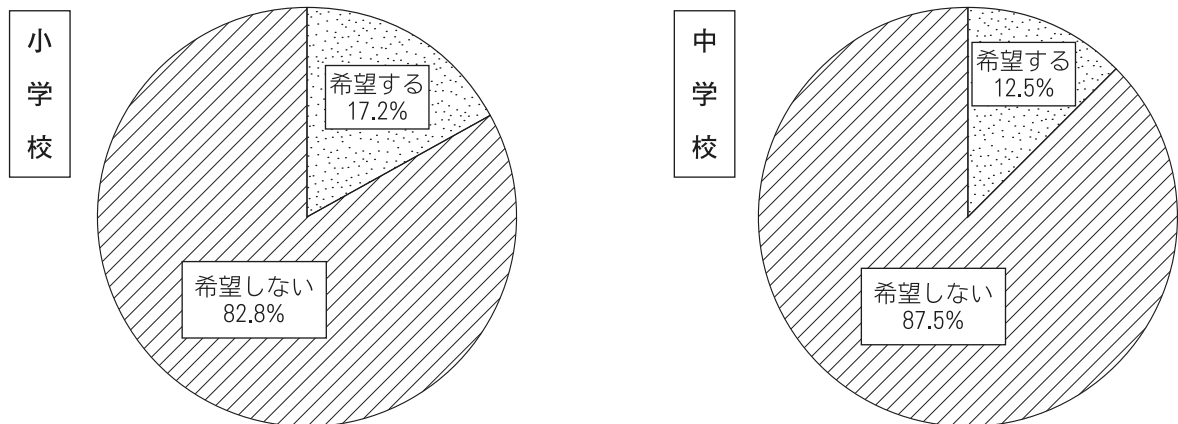
(2) ストレスの状態



最もストレスを感じる内容（「全く感じてない」以外の回答中の割合）

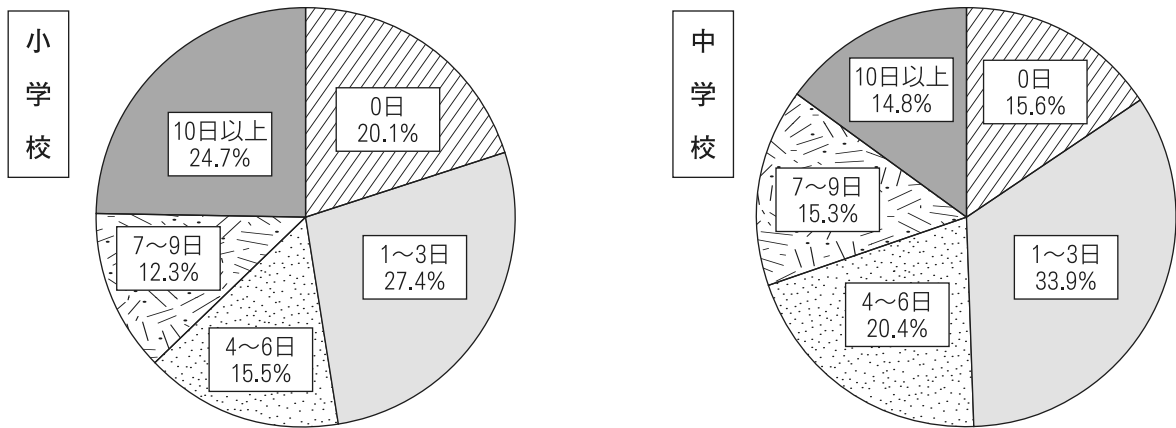


(3) 高ストレス者と診断された場合の面接指導希望の有無

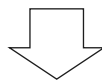
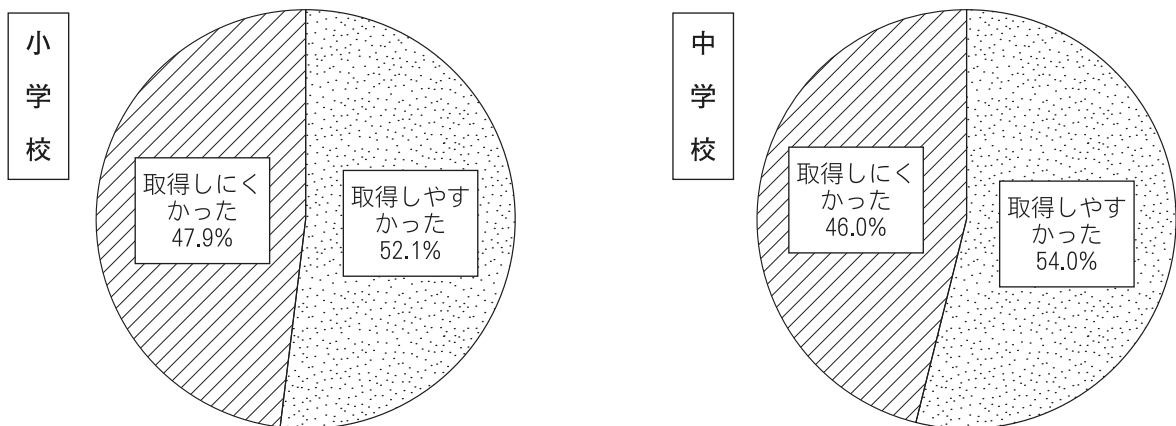


6 休暇の取得状況

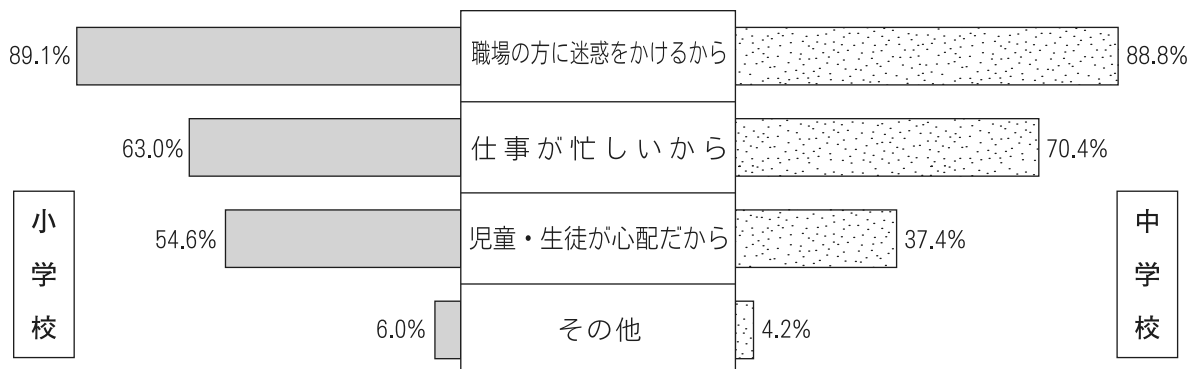
(1) 長期休業中を除き、取得した年次休暇や特別休暇・家族休暇の日数



(2) 休暇の取得のしやすさ

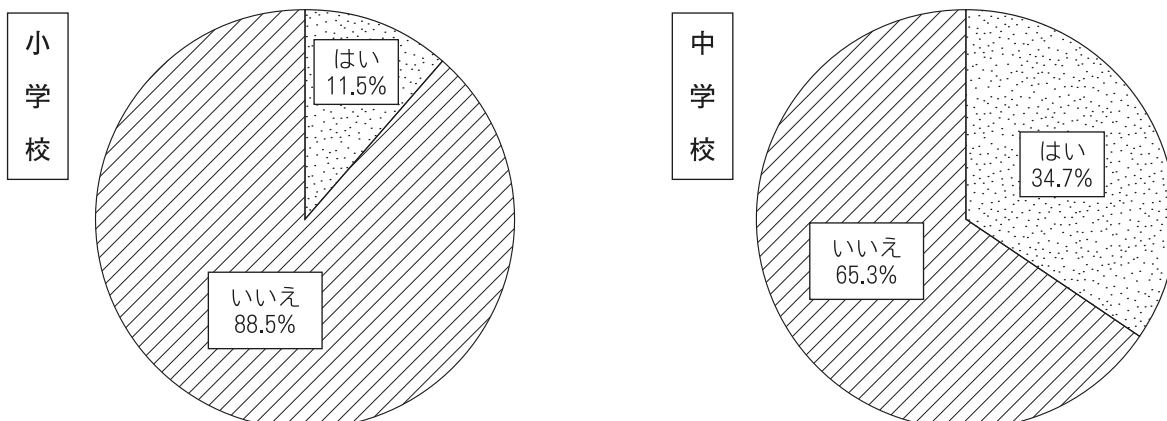


休暇が取得しにくかった理由（複数回答）



7 部活動について

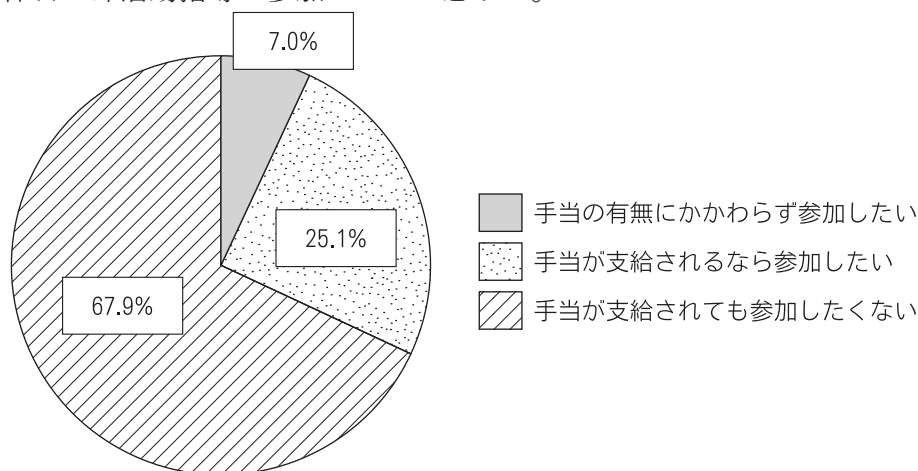
- (1) 現行の状態（平日90分以内で週2日以上休み、休日3時間以内で土日どちらか休み）で、来年度も部活動の顧問を続けたいと思うか。（小学校教諭は、中学校勤務になったと想定し回答）



- (2) 部活動をしたくない理由（複数回答）

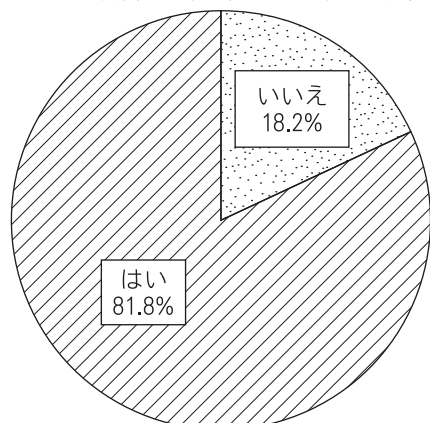
- ・勤務時間外や休日の時間が多く、休む時間がない。……………95.3%
- ・他の学校業務（教材研究や校務分掌）に十分な時間を使えない。…………74.2%
- ・部活動に対する手当が少ない。……………63.4%
- ・大会の運営や審判への参加が負担。……………58.4%
- ・経験したことの無い部活動のため、効果的な技術指導ができない。……48.4%

- (3) 休日の部活動指導に参加したいと思うか。

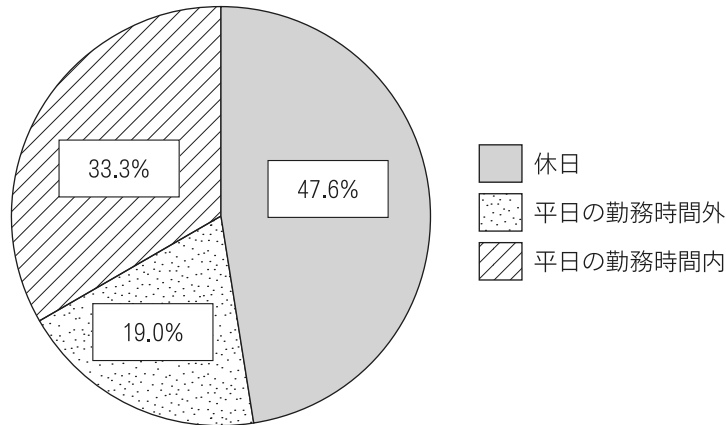


8 プール運営について

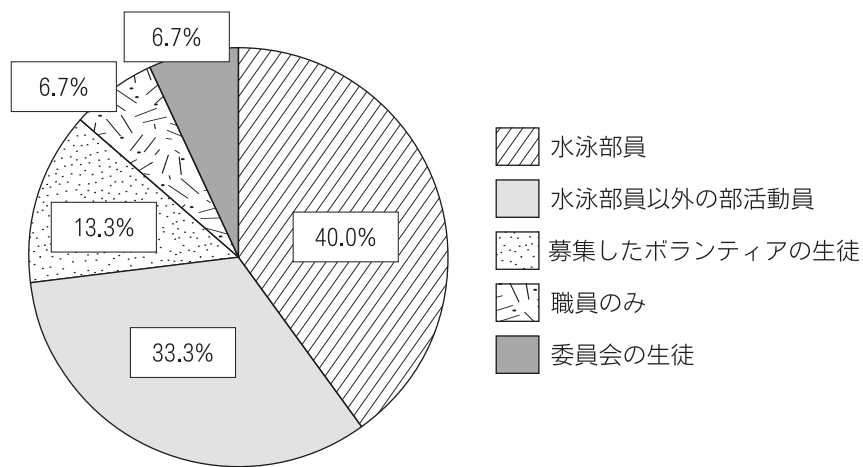
- (1) プール清掃の業者が入り、職員への負担はなくなったか。（小学校のみ）



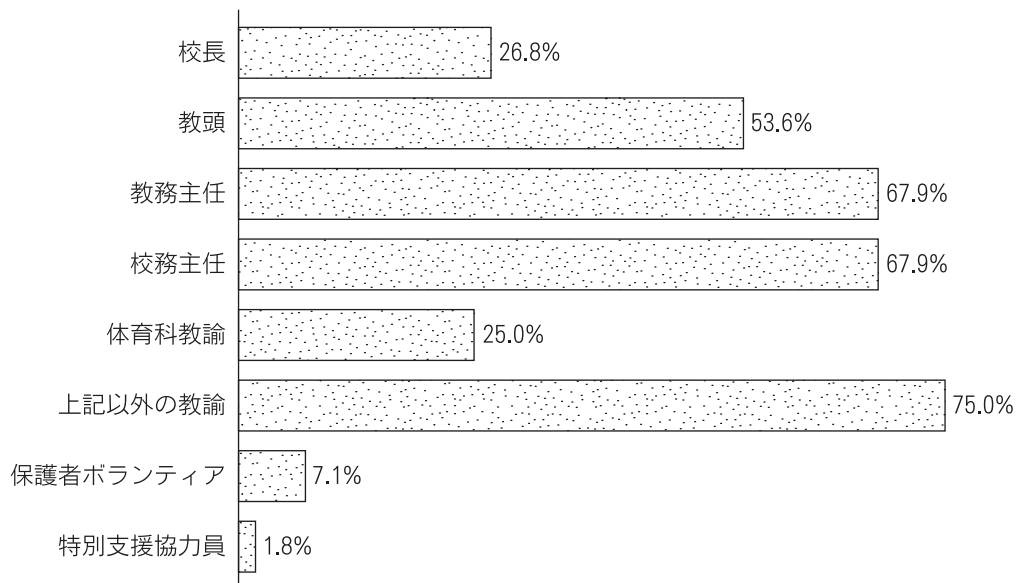
(2) プール清掃はいつ行っているか。(中学校のみ回答)



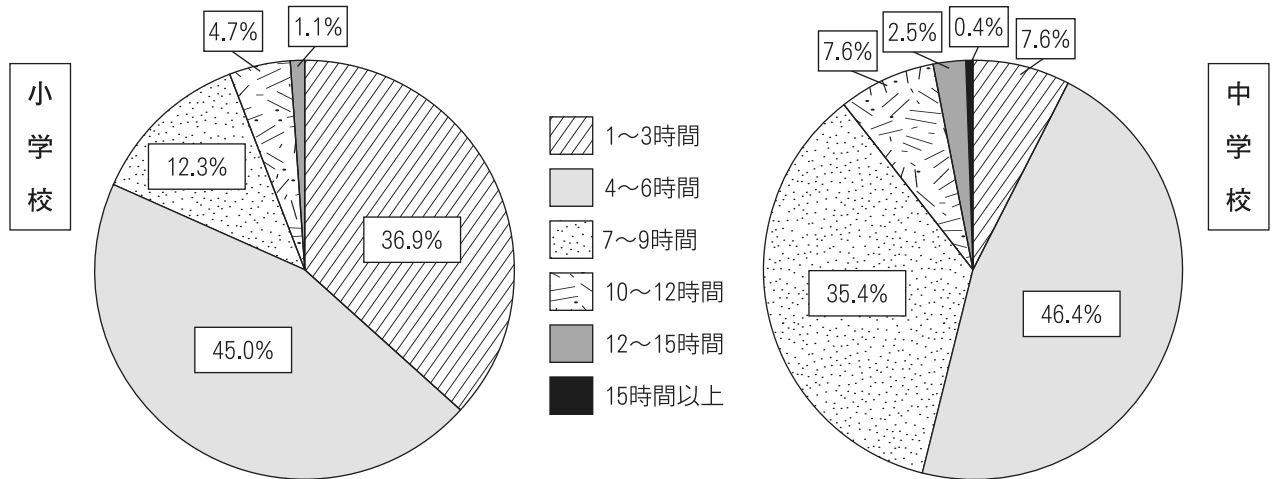
(3) プール清掃は誰が行っているか。



(4) 監視員は誰が行っているか。(複数回答)

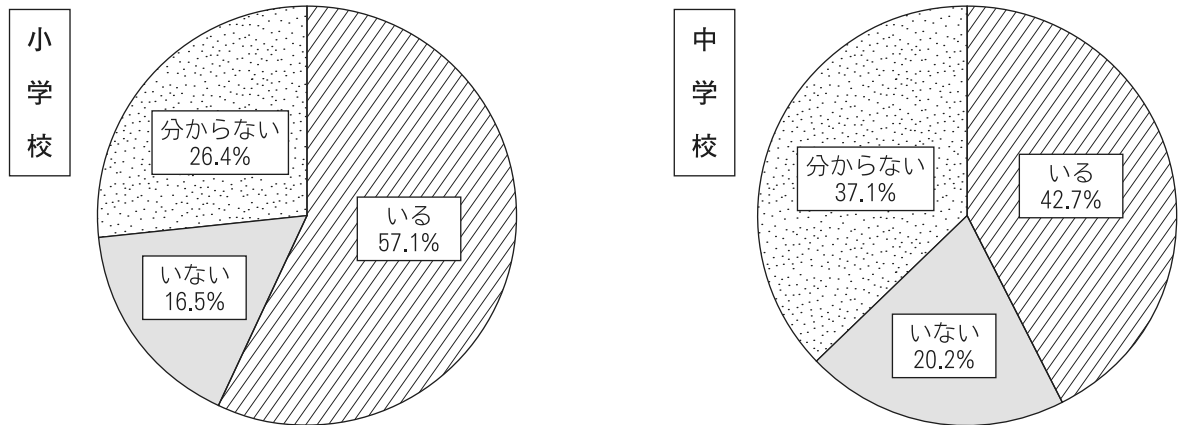


(5) クラスは何時間プールの授業を行ったか。(担任教諭のみ回答)

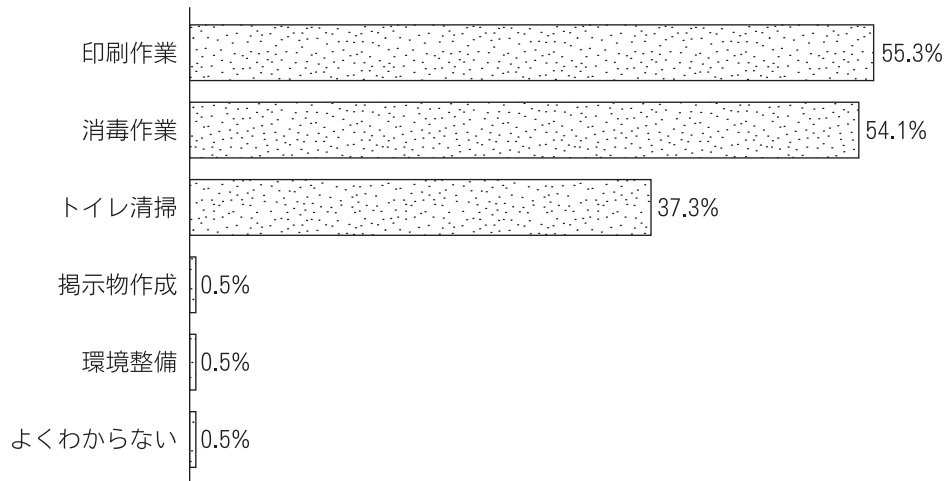


9 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）について

(1) 自校に教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）はいるか。



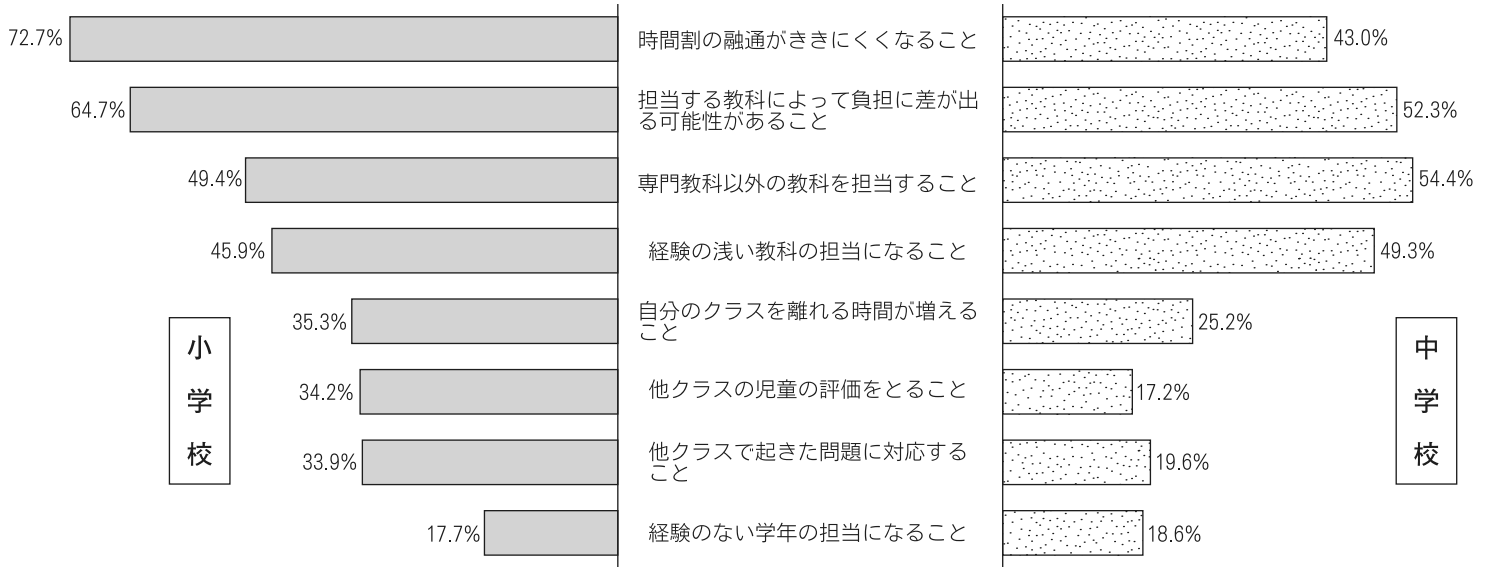
(2) 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）は、どのような業務を行っているか。（9 (1) で「いる」と回答した方のみ）



(3) 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）について、今後どのような業務を行ってほしいか。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 印刷作業 各種諸帳簿の作成 トイレ清掃 事務作業 | <ul style="list-style-type: none"> chromebookやアカウント、IDの管理 清掃、消毒、修繕など、教育以外の業務 採点 備品点検 |
|---|--|

10 小学校高学年の教科担任制について、不安に思っていること（中学校教諭は、小学校勤務になったと想定して回答）

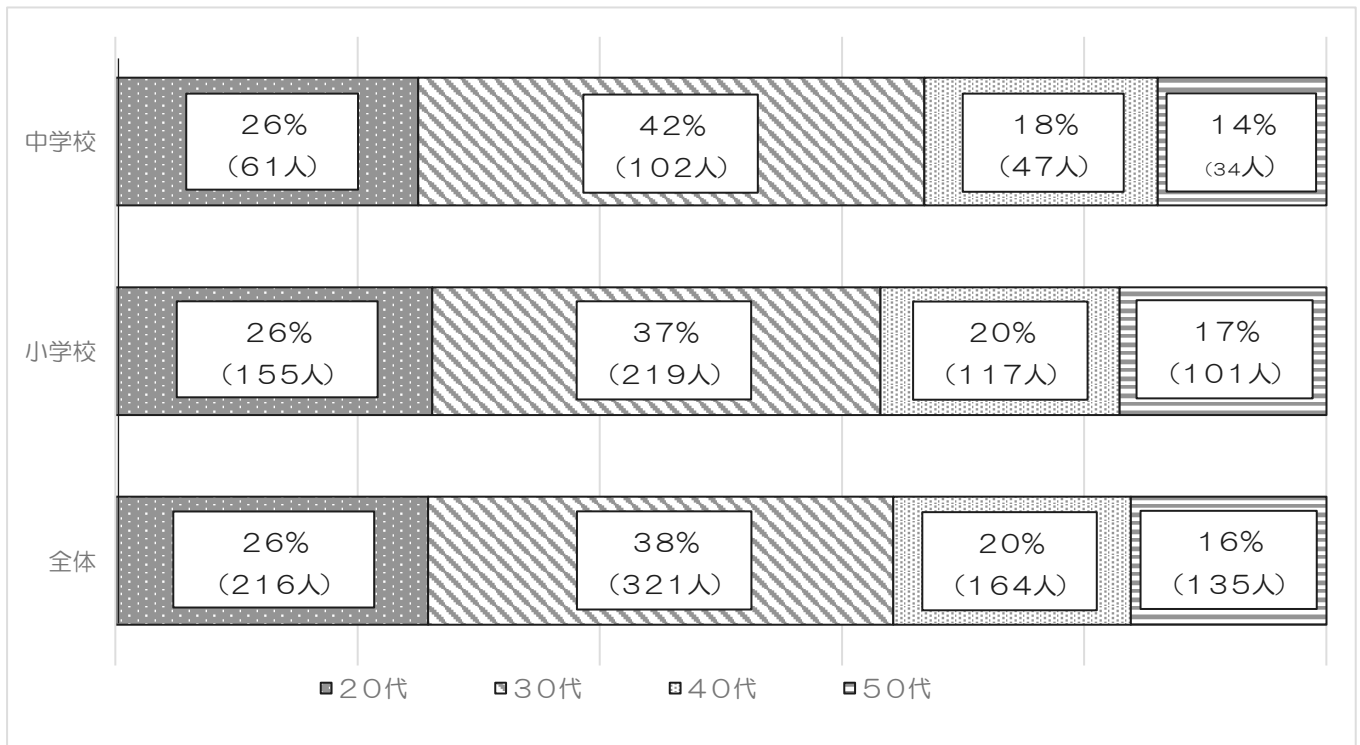


女性部

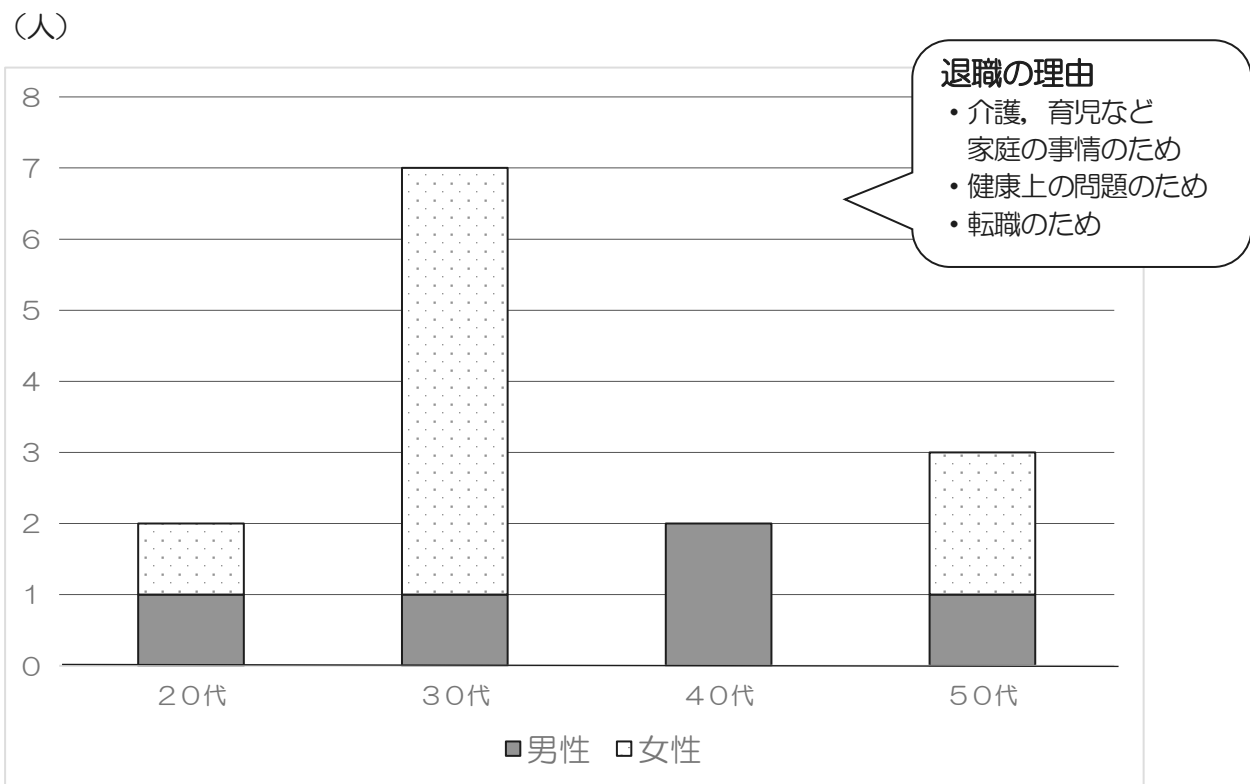
健康でいきいきと働き続けるために

1 女性教師の構成

(1) 女性教師の年齢別構成 (2022年4月1日現在)



(2) 退職状況 (定年退職以外の人) (2021年度末)



2 家族とのかかわりの中で

(1) 介護のための制度

- ① 昨年度、3親等内で2週間以上（負傷・疾病・老齢など）介護を必要とする方がいましたか？
 <調査対象：女性教師638人>

はい 49人	→	介護休暇を行使した	1人
	→	介護休暇を行使しなかった	48人

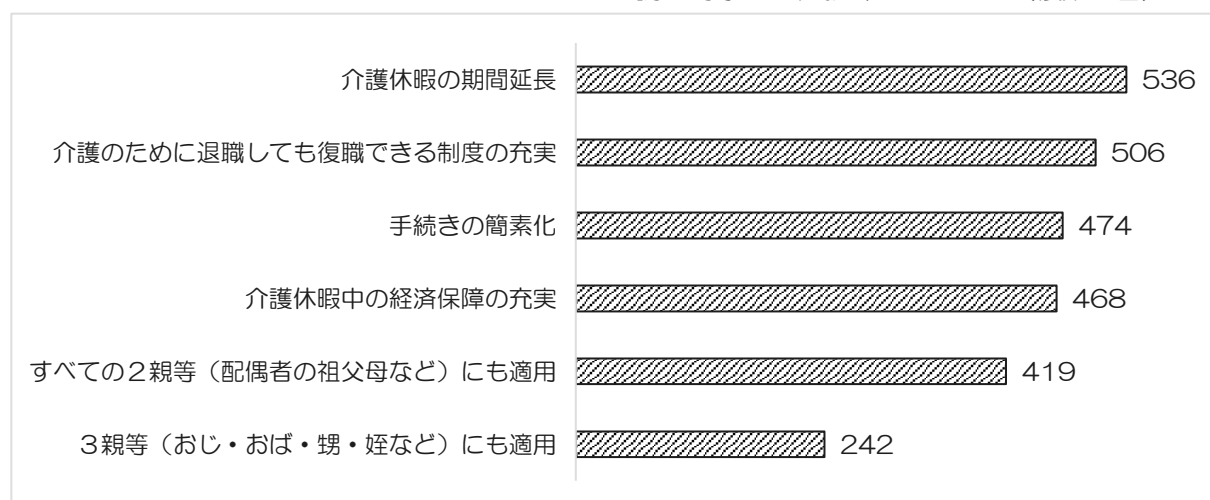
行使しなかった理由は・・・（複数回答）

- ・ 介護の見通しが立たなかった。 26人
- ・ 学校の子どもや同僚への迷惑を考えた。 11人
- ・ 制度についてよく知らなかった。 11人
- ・ 申し出にくい雰囲気だった。 5人
- ・ 手続きが煩雑だった。 3人
- ・ 経済的な問題があった。 2人



- ② 今後、介護休暇の充実にむけ、どのような制度内容を望みますか？

<調査対象：女性教師638人>（複数回答）



- ③ 男性教師に聞きました。昨年度、3親等内で2週間以上（負傷・疾病・老齢など）介護を必要とする方がいましたか？介護休暇を行使しましたか？

<調査対象：介護を必要とする方がいたと答えた男性教師51人>

介護休暇を行使した 5人	介護休暇を行使しなかった 46人
--------------	------------------

行使しなかった理由は・・・（複数回答）

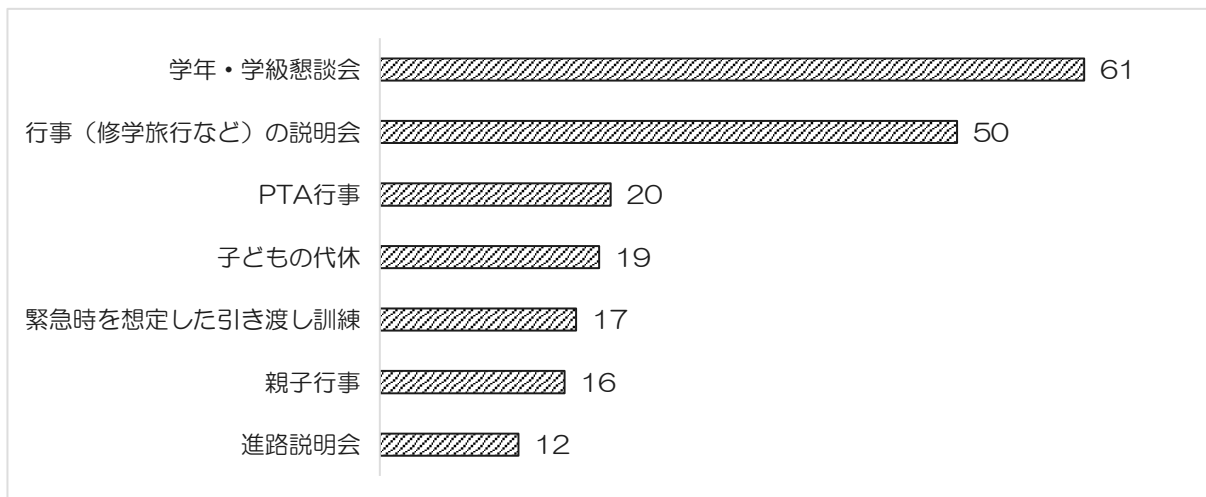
- ・ 介護の見通しが立たなかった。 26人
- ・ 学校の子どもや同僚への迷惑を考えた。 14人
- ・ 経済的な問題があった。 10人
- ・ 申し出にくい雰囲気だった。 8人
- ・ 介護の対象者が2親等でも介護休暇の対象に含まれていなかった。 7人
- ・ 手続きが煩雑だった。 7人
- ・ 制度についてよく知らなかった。 5人
- ・ 介護の対象者が3親等だった。 3人

(2) 家族休暇

子どもをもつ女性教師に聞きました。年次休暇を取った学校行事は何でしたか？

① 幼稚園、保育所、小・中学校などに通う子どもをもつ女性教師

＜調査対象：168人＞（複数回答）



組合員の声

- ・子どもが複数いると日数が足りなくなって、年休を使うことがある。
- ・休んでも代わり的人がいないので、取得できない。
- ・PTA や子ども会など、配付文書がない場合もあるので、配付文書がなくても簡単な手続きで家族休暇を取得できるとよい。

② 高校生の子どもをもつ女性教師

＜調査対象：41人＞（複数回答）



組合員の声

- ・家族休暇の事由に進路説明会も入れてほしい。
- ・高校の卒業式で家族休暇が取得できないと知って驚いた。

(3) 妻の出産補助休暇・育児参加休暇

昨年度、妻が出産した男性教師46人に聞きました。

・妻の出産補助休暇を行使しましたか？	行使した 20人	行使しなかった 26人
・育児参加休暇を行使しましたか？	行使した 15人	行使しなかった 31人

(4) 子育てにかかわる制度

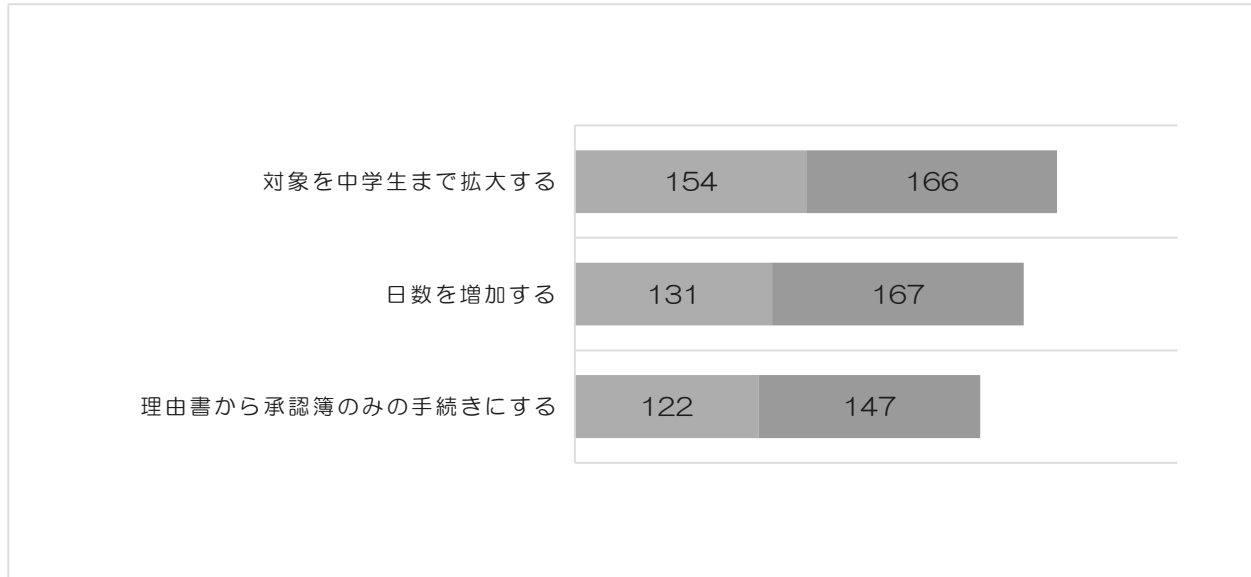
- ① 昨年度、お子さんの病気・けがの看護や疾病の予防をはかるための世話（予防接種など）で、休暇を行使しましたか。

＜調査対象：昨年度、中学生以下の子どもをもつ女性教師 205人 男性教師 224人＞

行使した	女性 → 84人	【行使した休暇】	子の看護休暇	115人
	男性 → 41人		年次休暇	76人
			家族休暇(家族看護)	6人

- ② 今後、子の看護休暇について、どのようなことを望みますか？（複数回答）

＜調査対象：昨年度、中学生以下の子どもをもつ女性教師 205人 男性教師 224人＞



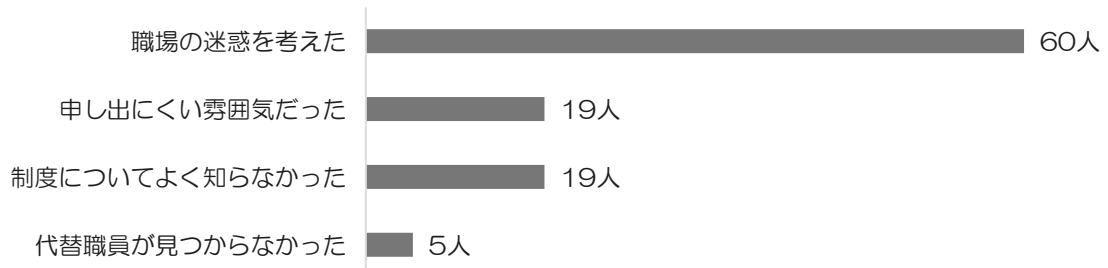
- ③ 昨年度、育児短時間勤務制度を行使しましたか？

＜調査対象：昨年度、小学校就学前の子どもをもつ女性教師 104人 男性教師 189人＞

行使した	→ 26人（女性25人，男性1人）
行使したかったができなかった	→ 66人（女性25人，男性41人）

- ④ 育児短時間勤務制度を行使できなかった理由は何ですか？（複数回答）

＜調査対象：育児短時間勤務制度を行使したかったができなかったと答えた教師 66人＞



⑤ 育児短時間勤務制度に改善を望むことは何ですか？

- 代替教員の確実な配置。人数の確保を市全体でしてほしい。
- 育児短時間勤務制度をとることができる期間を延長してほしい。
- 短時間勤務の時間内に終わられる仕事量（校務分掌）にしてほしい。
- 副担任や専科，少人数指導教員として，育短制度を行使しやすくしてほしい。

3 命を産み育てる母親として

(1) 体育実技授業の負担軽減措置の行使

① 体育実技授業の負担軽減措置を活用しましたか？

<調査対象：昨年度小学校に勤務し、妊娠していた女性教師16人>

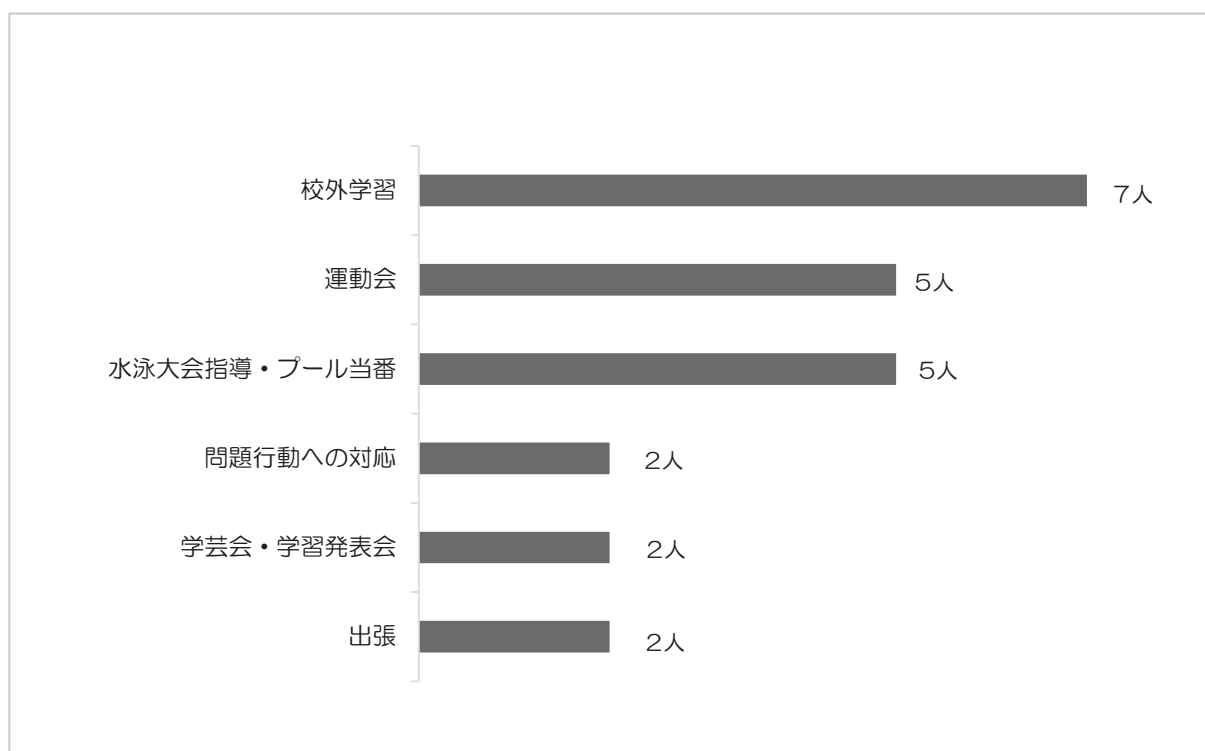
活用した	2人
活用したかったができなかった	8人
活用する必要がなかった	6人

② 体育実技授業の負担軽減措置を活用しなかった理由は何ですか？

- ・講師が見つからなかった。
- ・校内で対応することを勧められた。(合同体育・交換授業など)

③ 妊娠中、校務の中で、不安や不都合を感じたのは何ですか？(複数回答)

<調査対象：昨年度小学校に勤務し、妊娠していた女性教師16人>



(2) 不妊治療

① 病院で相談や検査をしたり、不妊治療を行ったりしましたか？

＜調査対象：昨年度不妊について悩んでいた女性教師38人＞

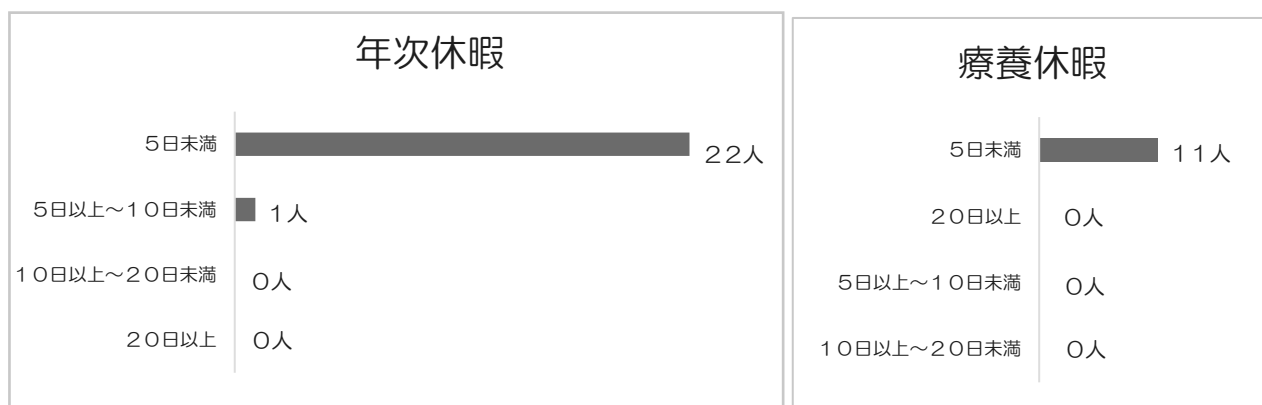
はい	いいえ
25人	13人

【治療などを行わなかった理由】

- ・体調と治療のタイミングなど、見通しが立たなかったから。
- ・治療に対する精神的、身体的な負担が大きかったから。
- ・治療の期間が長くなることをふまえると、年休では足りないと思うから。
- ・不妊治療に対する理解が得られにくく、周りからのプレッシャーを感じてしまうから。

② 相談や検査、治療（治療による体調不良も含む）のために、1年につき、何日くらい休暇を取りましたか？

＜調査対象：昨年度不妊治療を行った女性教師25人＞



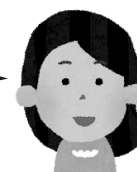
※ 年次休暇、療養休暇の両方を取得した人もいます。

③ 不妊治療と仕事を両立していく上で、難しいこと、不安なことはどんなことですか？

＜調査対象：女性教師604人＞

- ・体調に合わせて、通院や治療をする必要があり、職場内で理解してもらう必要がある。
- ・仕事の時間と通院や治療にかかる時間の調整が困難である。
- ・仕事と治療の両方でストレスを感じ、不妊治療に影響をおよぼしそうである。

不妊治療は、身体的にも精神的にも大きな負担があります。その負担を軽減し、少しでも安心して治療に専念できるよう、職場の理解を進めるとともに、出生サポート休暇の日数の増加が望まれます。

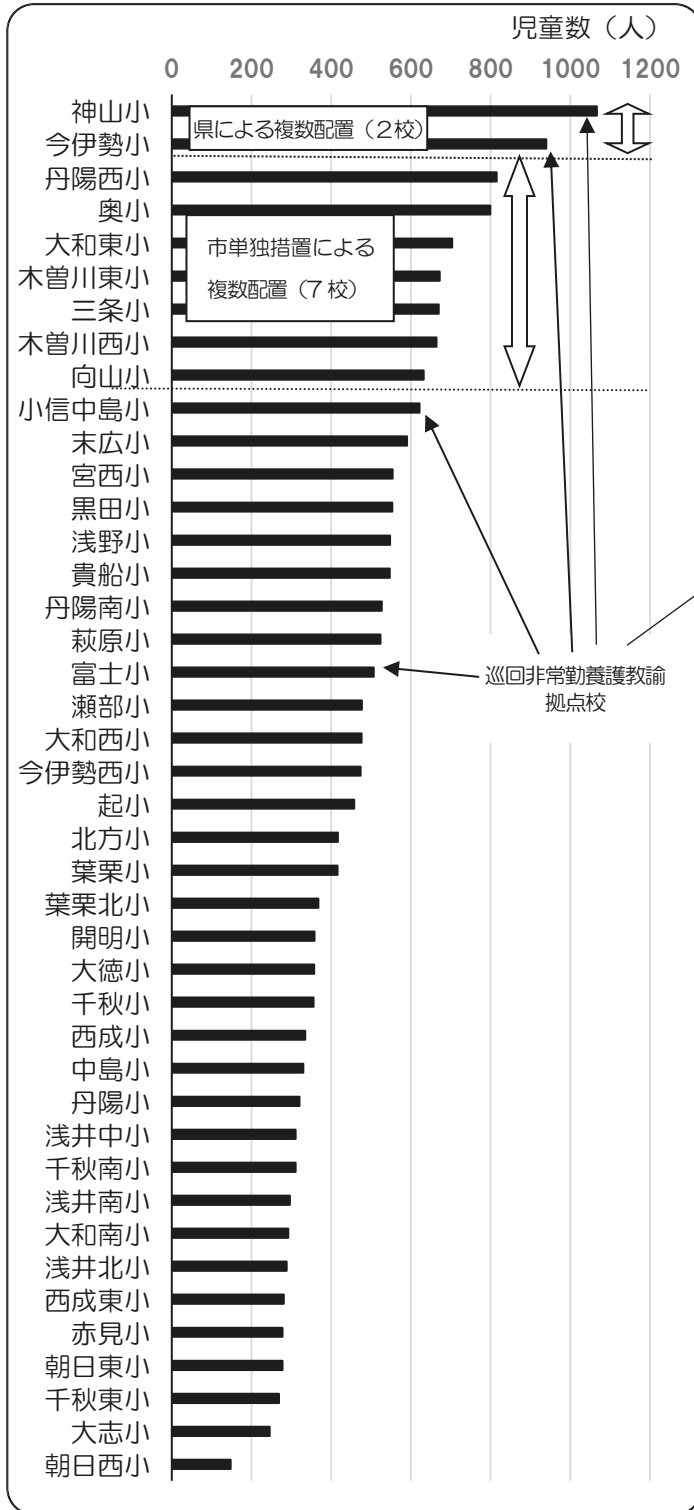


ゆきとどいた保健活動をするために

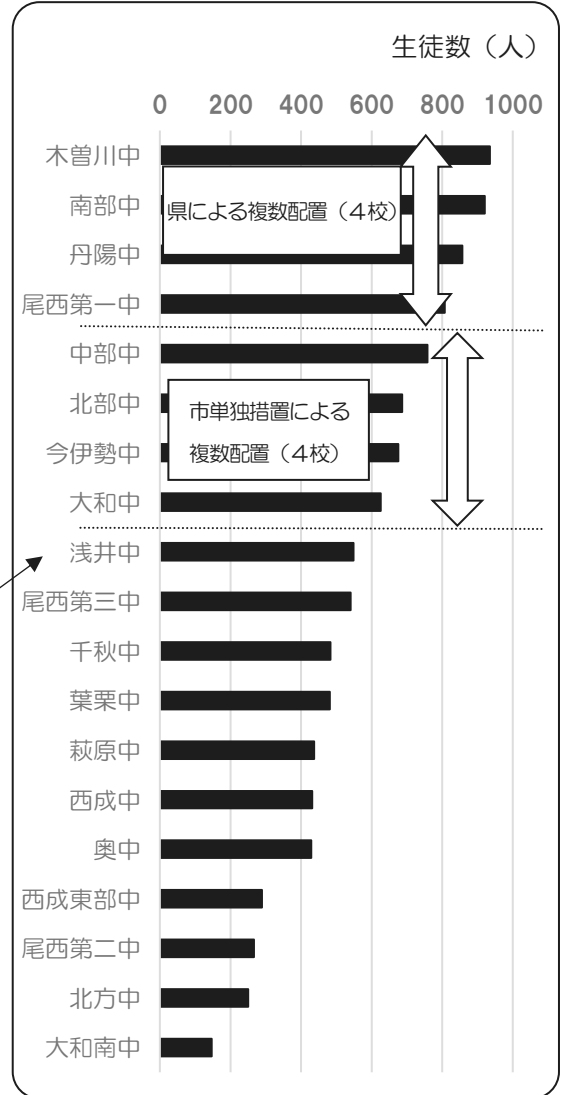
1 養護教員の職務の現状

(1) 学校の規模と複数配置の様子

小学校



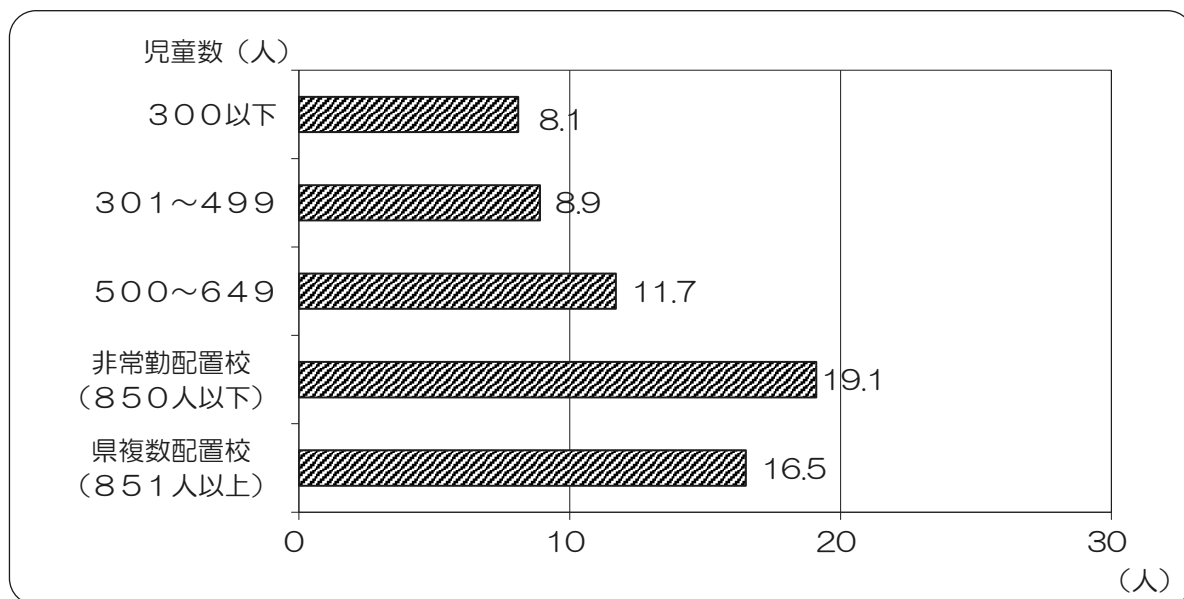
中学校



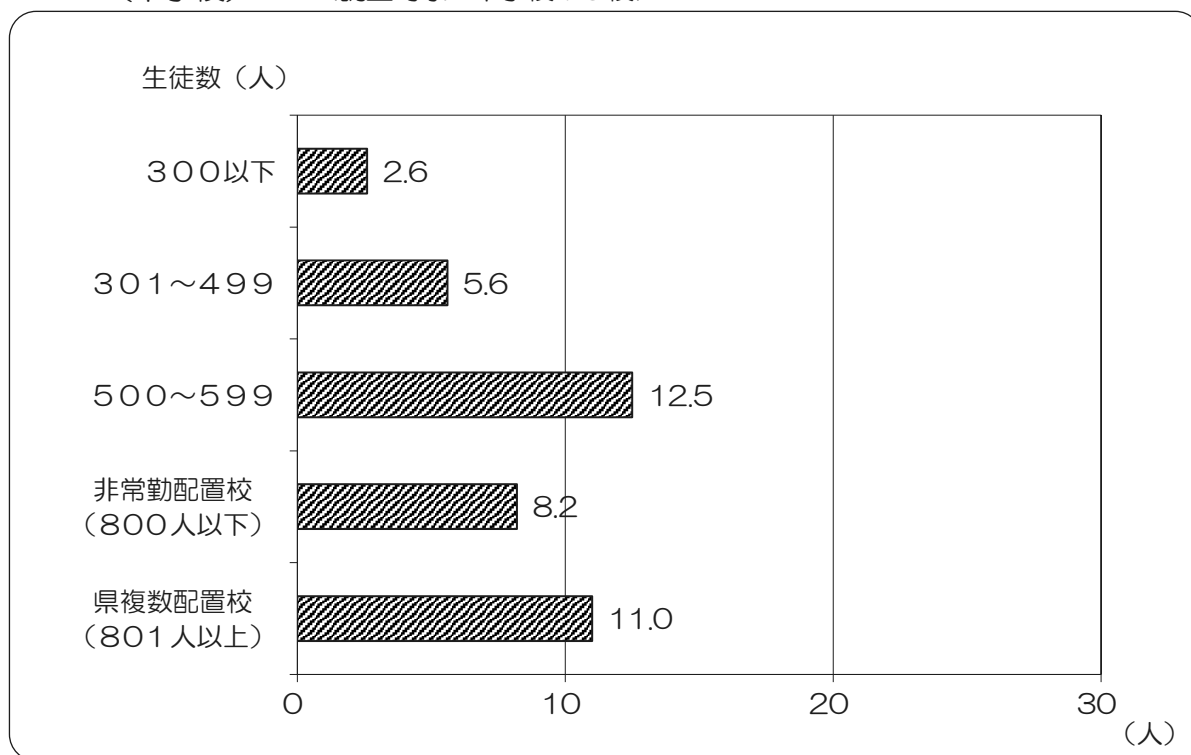
(2) 保健室利用状況

1日の平均保健室来室者数（保健室登校を含む）

（小学校） <調査対象：小学校42校>



（中学校） <調査対象：中学校19校>



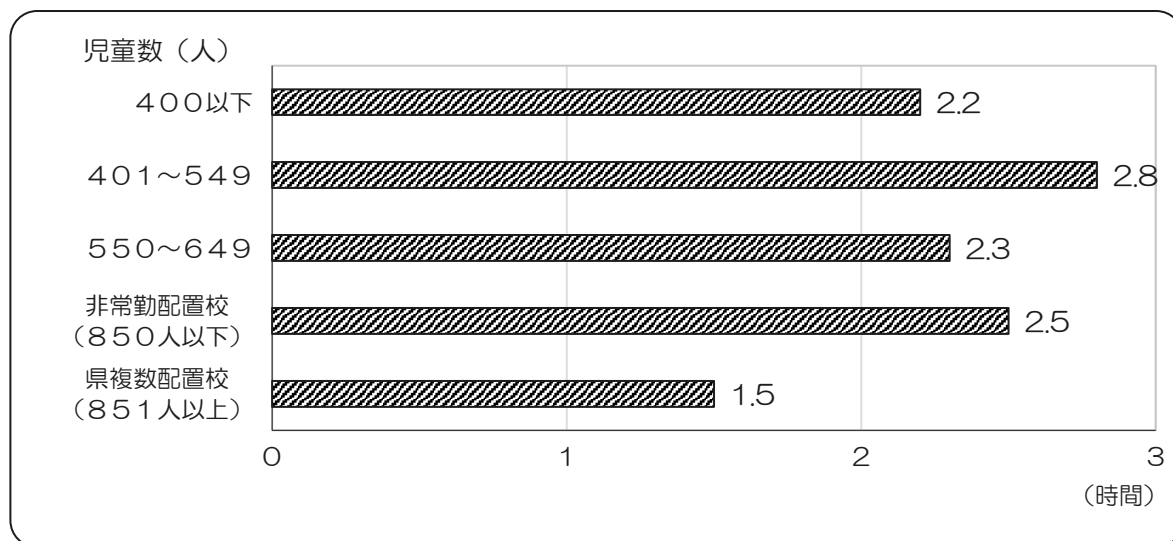
- 児童生徒数が多い学校で1日の平均来室者が多い傾向にありますが、必ずしも児童生徒数に比例するものではありません。
- 複数配置校では、一度に複数の来室者があっても2人の養護教員で分担して対応できるので、来室者の多い小学校の複数配置基準の引き下げが望まれます。

(3) 養護教員の時間外勤務状況

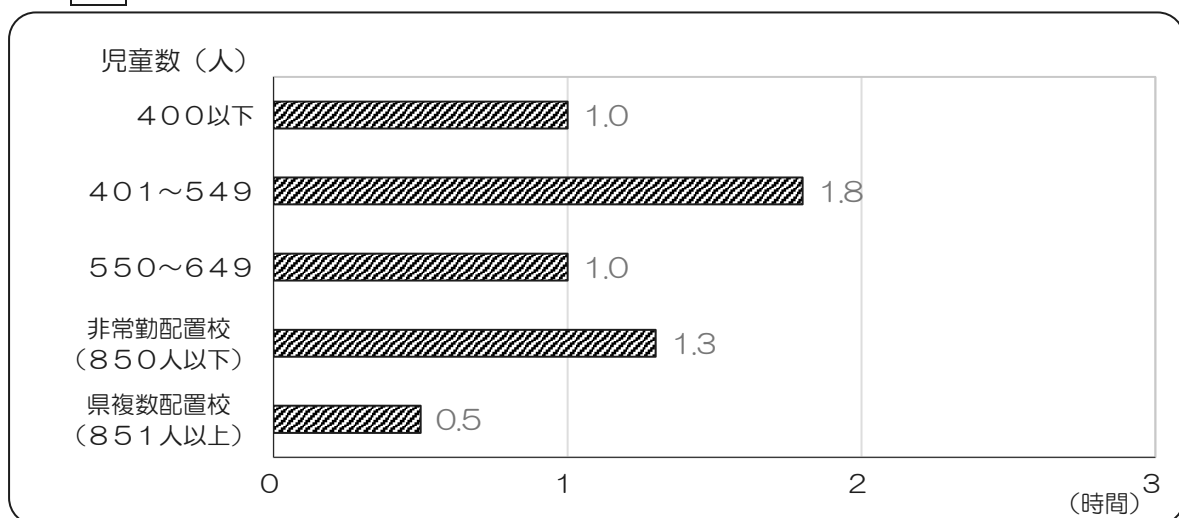
勤務時間外に仕事をする時間（小学校）

＜調査対象：小学校42校＞

平日



休日



勤務時間外に行う主な仕事（小学校）（複数回答）

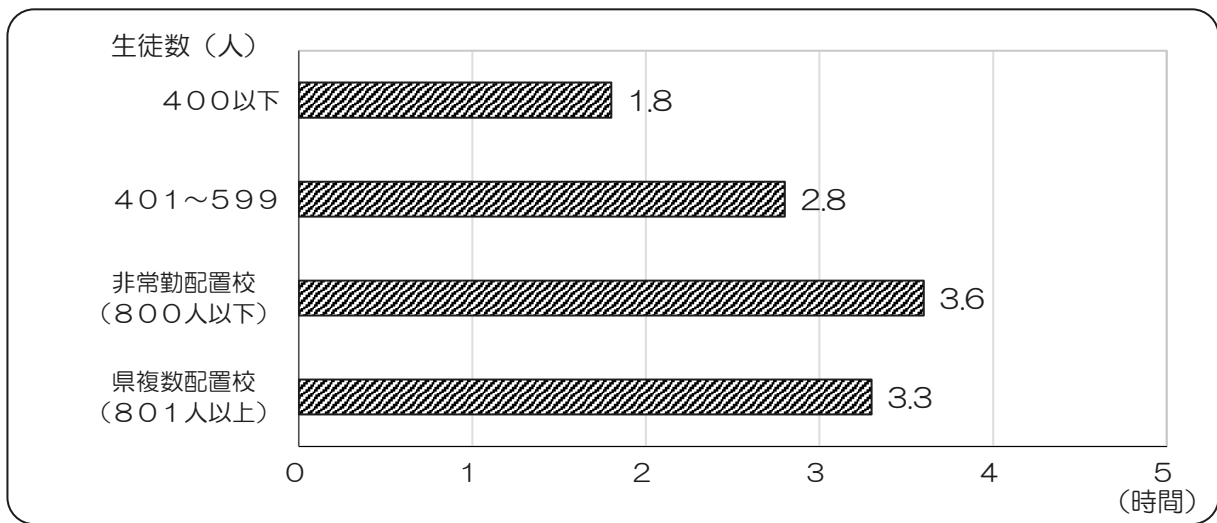
- 保健事務
- 保健教育に関すること（教材研究、ワークシートの点検など）
- 子どもの健康相談・その他の保健指導
- 保護者や関係機関との面談・連絡調整
- けがや病気の対応・医療機関への移送

組合員の声

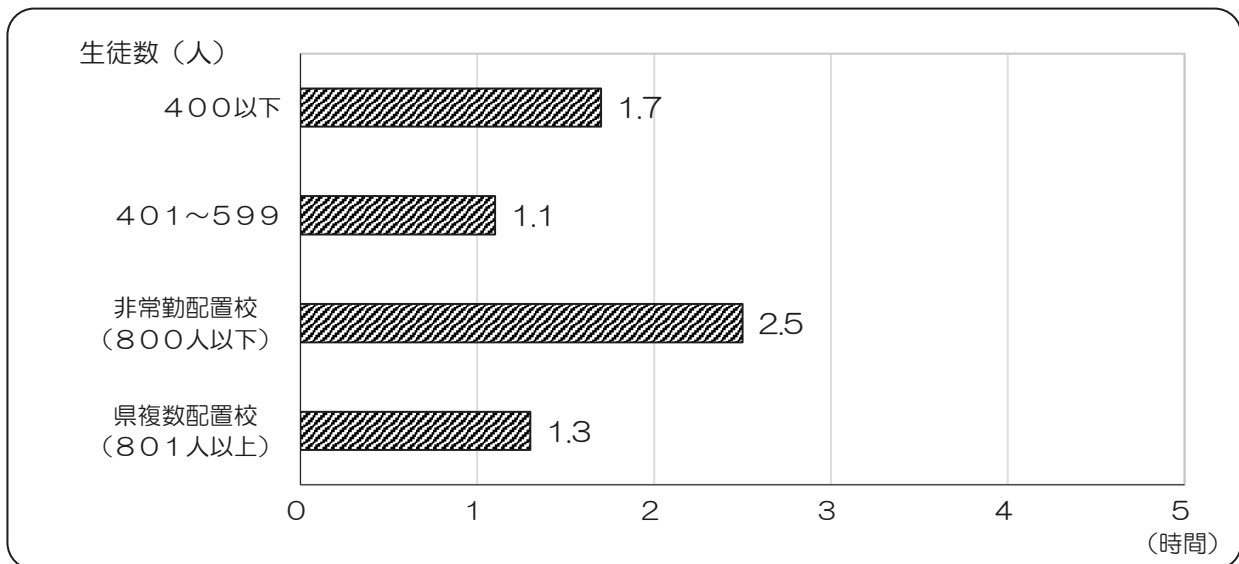
- ・ 夕方登校の児童の対応をしている。どうしても勤務時間外になってしまう。
- ・ 他の教員と連携を取る時間がなく、勤務時間外になってしまう。
- ・ 時間外の医療機関への移送は必ずしも養護教員でなくてもいいようにしてほしい。

勤務時間外に仕事をする時間（中学校） <調査対象：中学校19校>

平日



休日



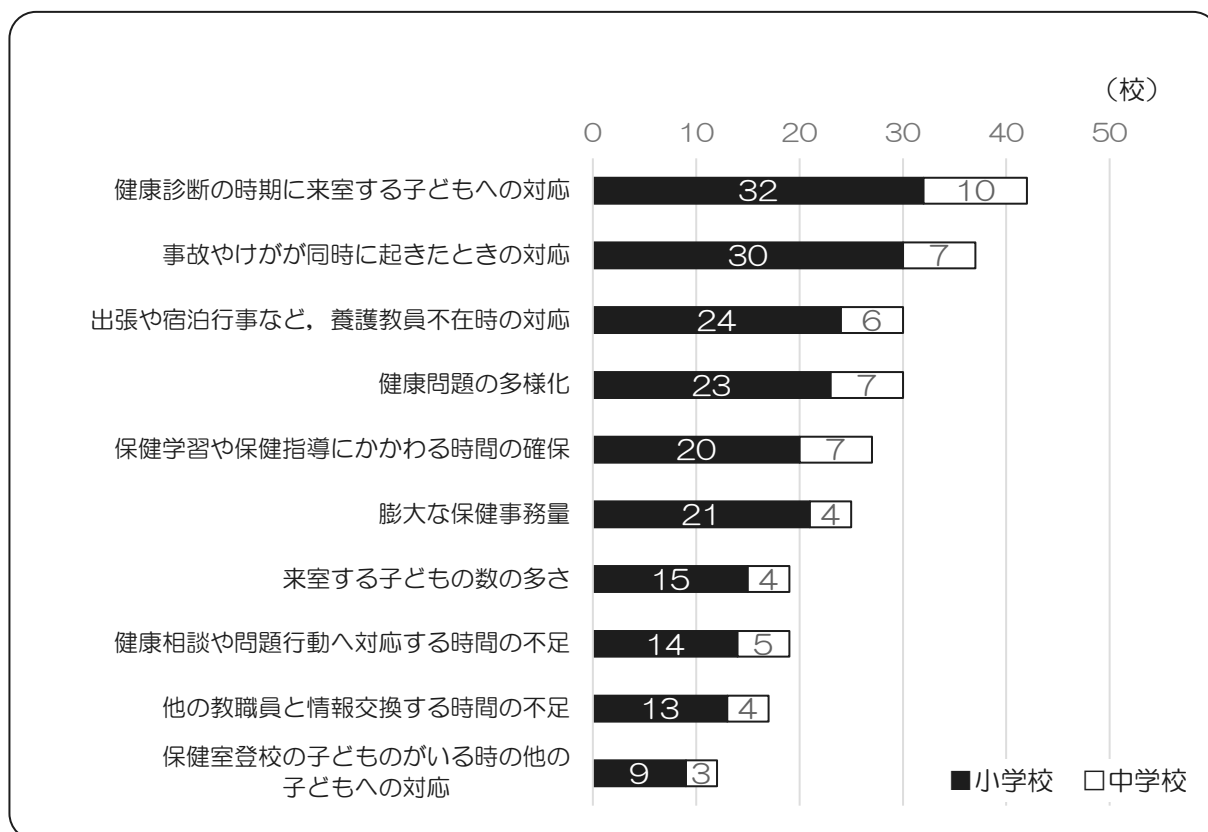
勤務時間外に行う主な仕事（中学校）（複数回答）

- 保健事務
- けがや病気の対応・医療機関への移送
- 子どもの健康相談・その他の指導
- 保護者や関係機関との面談・連絡調整
- 保健教育に関すること（教材研究、ワークシートの点検など）

勤務時間外に仕事をする時間が、800人以下の非常勤配置校で多くなっています。中学校は、勤務時間外にけがや病気の対応・医療機関への移送を行っている割合が小学校に比べて多く、生徒が学校にいる間は養護教員の在在を期待されるという状況もあります。養護教員の複数配置基準の引き下げが望まれます。

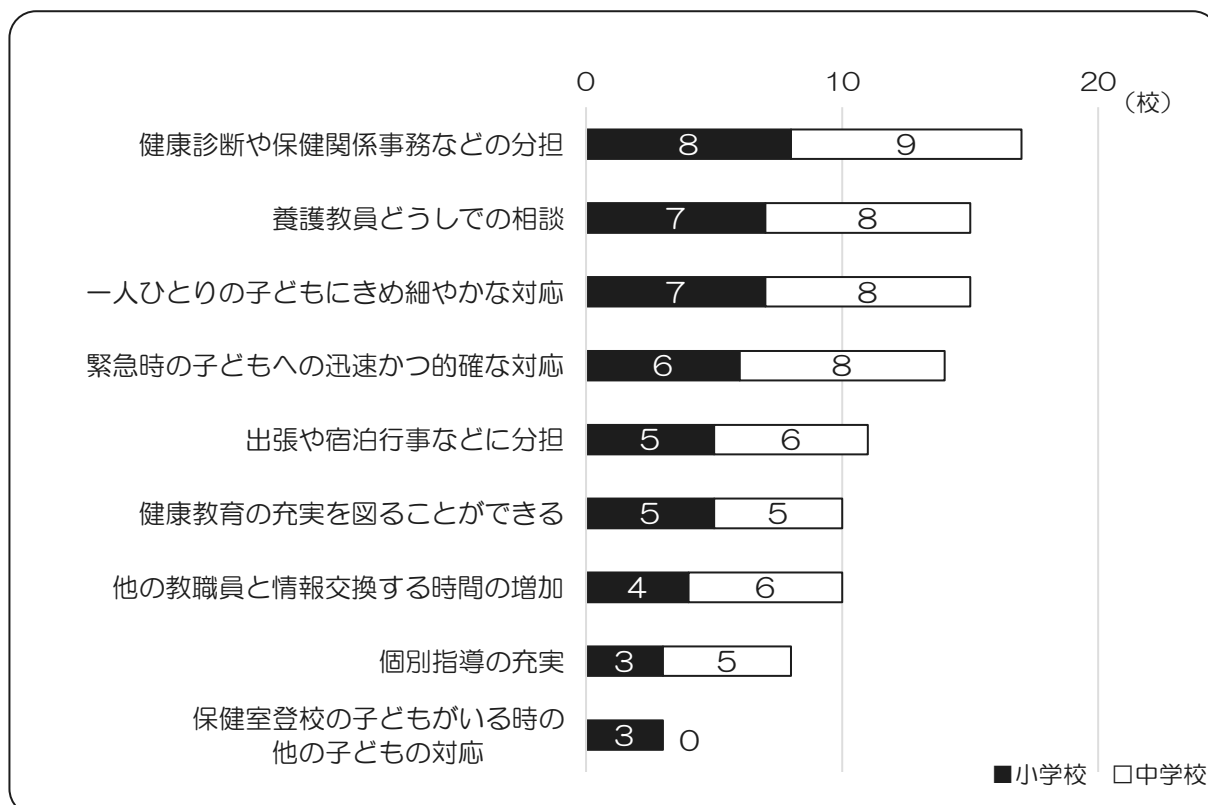
(4) 単数配置の養護教員が困っていること

<調査対象：小学校33校 中学校11校 計44校>



(5) 複数配置になって可能になったこと

<調査対象：小学校9校 中学校8校 計17校>



(6) 食物アレルギー対応

① 食物アレルギー対応が必要な児童生徒がいる学校

〈調査対象：小学校42校 中学校19校 計61校〉

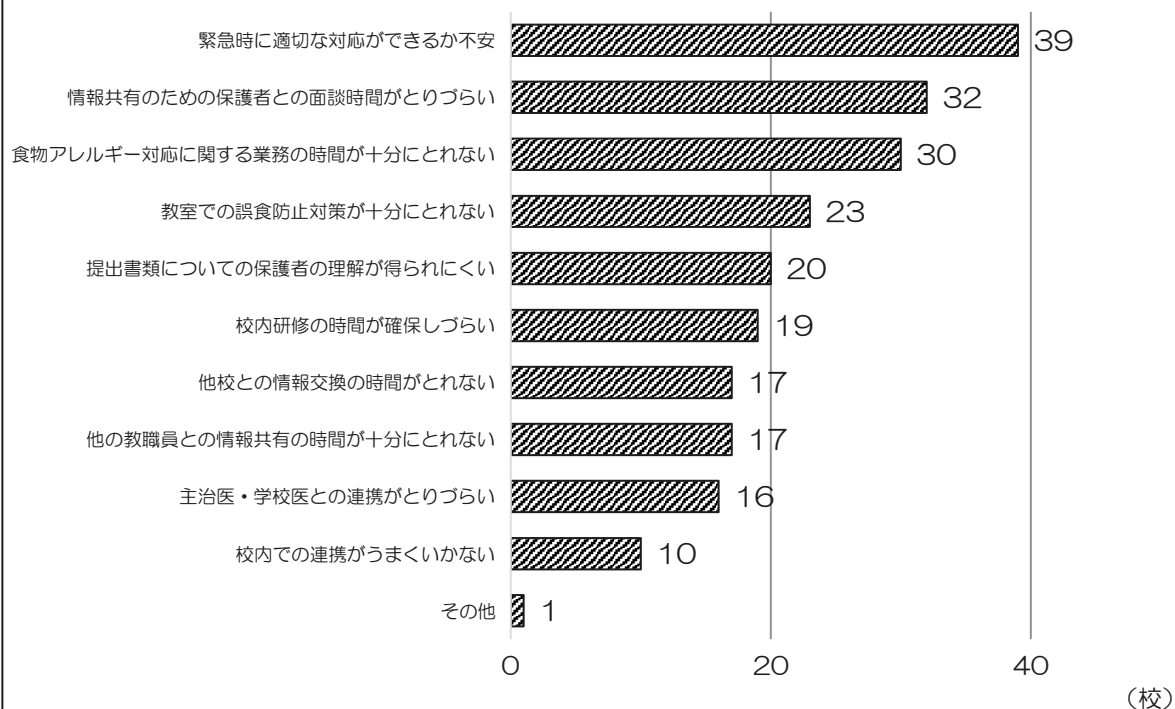
市内の全小中学校に食物アレルギー対応が必要な児童生徒が在籍し、その数は661人、そのうちエピペン所有者は157人でした。



食物アレルギーの面談は、養護教員一人あたりで平均5.7人、一人当たりの平均面談時間は22.9分でした。

食物アレルギー対応を進めていく上で困っていること

(複数回答)

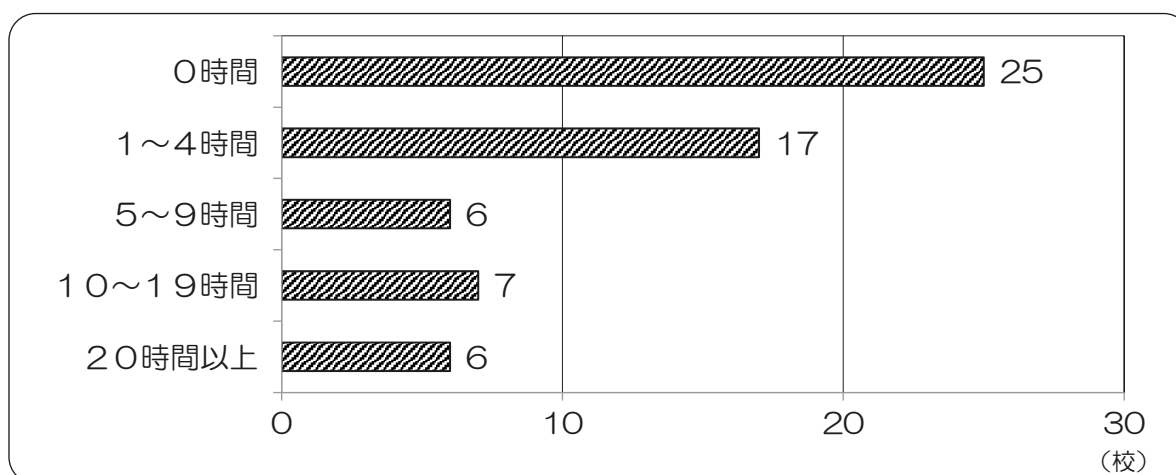


- 食物アレルギーを持つ児童生徒が年々増加しています。児童生徒数が多い学校は食物アレルギー対応に必要な児童生徒も多く、個々の児童生徒の対応方針を決めるための面談に非常に時間がかかります。
- 誤食を含めた、日々の事故防止対応にも非常に時間がかかります。
- 養護教員は、毎日、細心の注意を払って対応していますが、限界があります。児童生徒の安心、安全のためにも、複数配置基準の引き下げが望まれます。

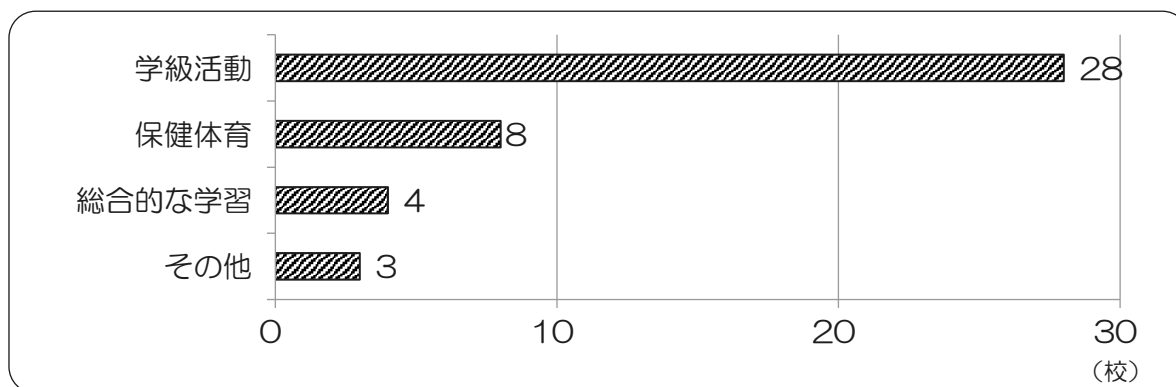
(7) 健康教育でのかかわり

〈調査対象：小学校42校 中学校19校 計61校〉

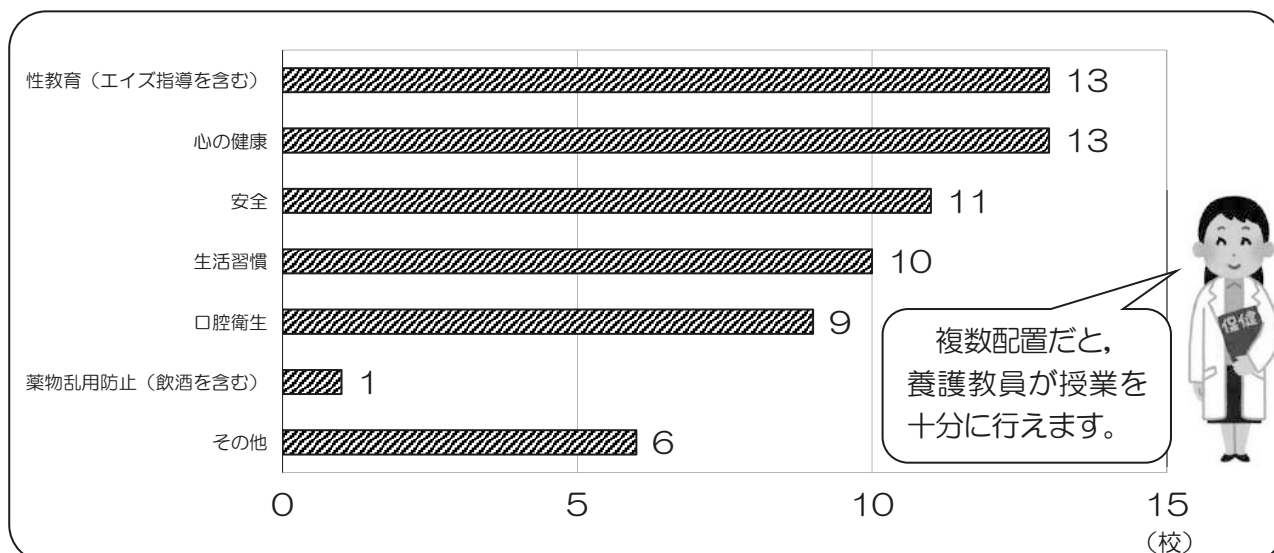
① 2021年度に年間何時間、授業を行いましたか？



② 行った授業はどの時間を利用しましたか？（複数回答）



③ どんな授業内容でしたか？（複数回答）



○授業を行う上での問題点

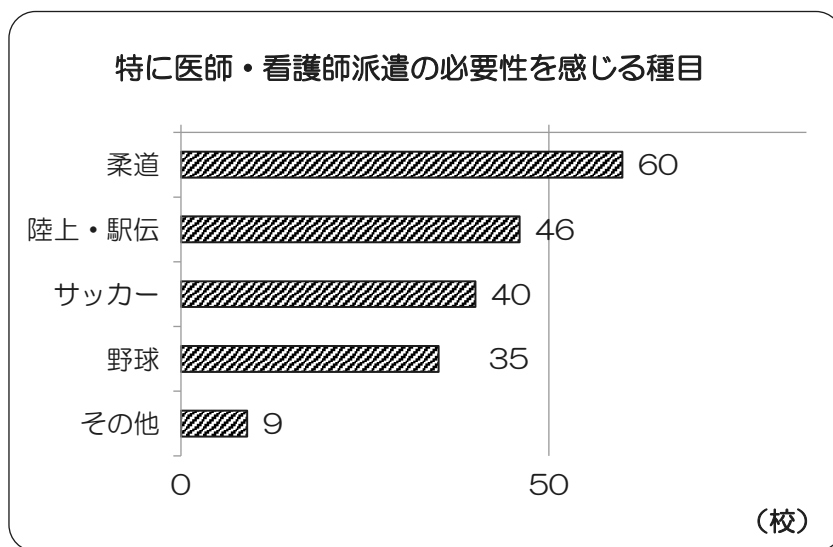
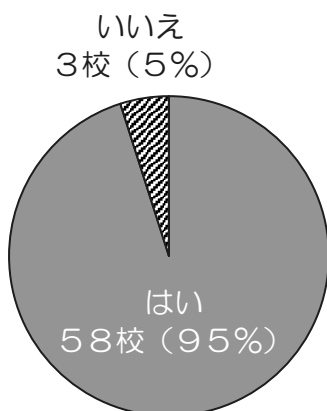
- ・ 授業を優先させると、来室者への対応が後回しになる。
- ・ 授業を実施している時間帯の保健室来室者への対応の支援体制を整えてほしい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策もあり、教材研究の時間の確保が難しい。
- ・ 来室者が多く、保健室を離れること自体が難しい。

(8) 医師・看護師派遣

<調査対象：小学校42校 中学校19校 計61校>

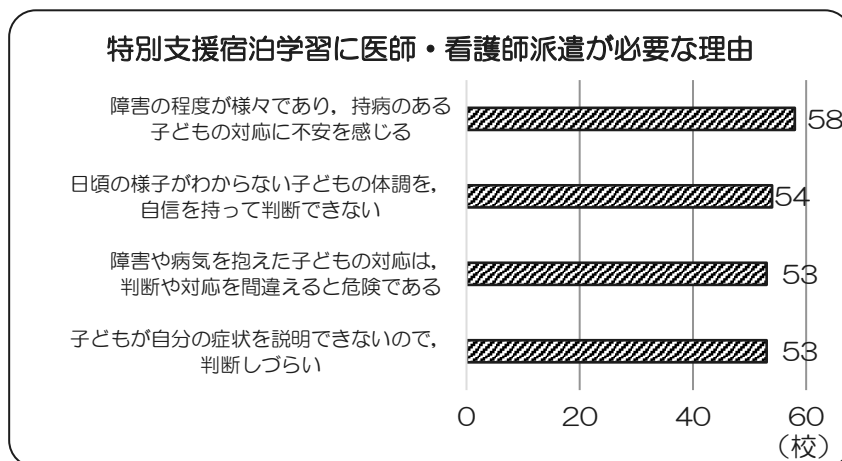
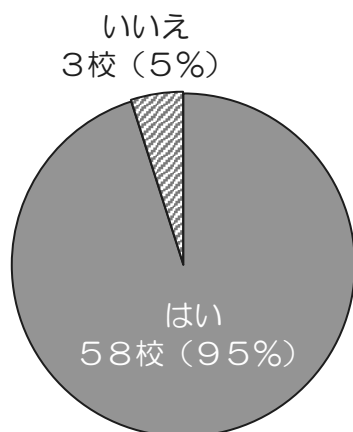
① 各種大会救護

医師・看護師派遣の必要性を感じますか？（複数回答）



② 特別支援宿泊学習の引率

医師・看護師派遣の必要性を感じますか？（複数回答）



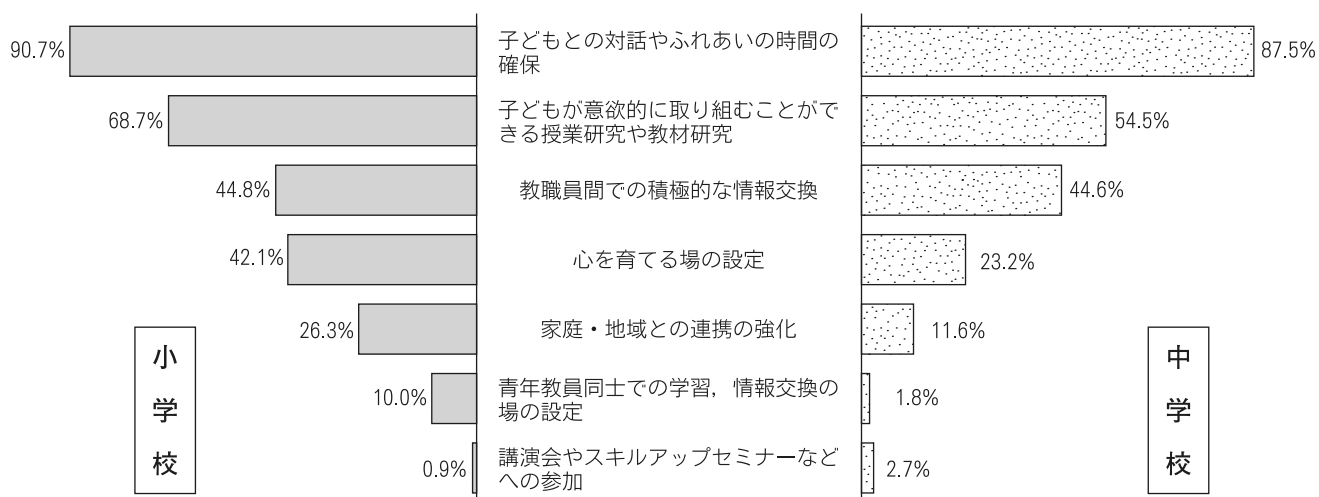
組合員の声

- 大会の規模（西尾張以上）や大きなけがにつながる種目、けがの多い種目だけでも医師・看護師の派遣をお願いしたい。
- 特別支援宿泊学習の引率では、自校の児童であれば関わりもあるため対応できるが、他校の児童の対応は難しい。医師・看護師等専門の方を派遣してもらえると大変ありがたい。
- 養護教員は医療行為ができない。ぜひ看護師の派遣をお願いしたい。

青年部

I 子どもたちの健やかな成長のために

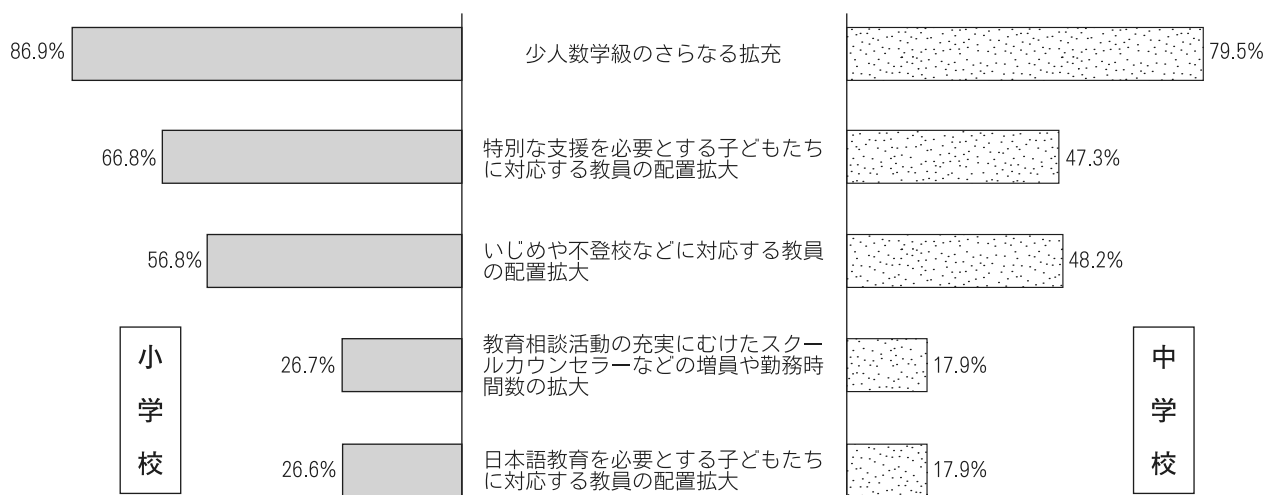
1 子どもたちの健やかな成長のために、大切にしていること（複数回答可）



2 子どもへの指導で、悩んだり困ったりしていること（複数回答可）

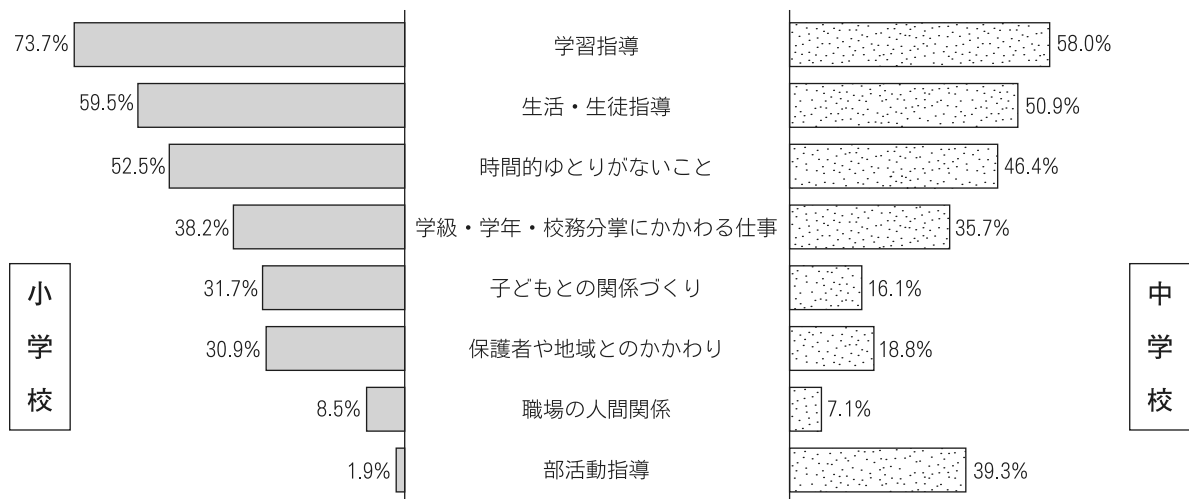


3 子どもたちの健やかな成長のために、今後必要と思われる教育条件整備（複数回答可）

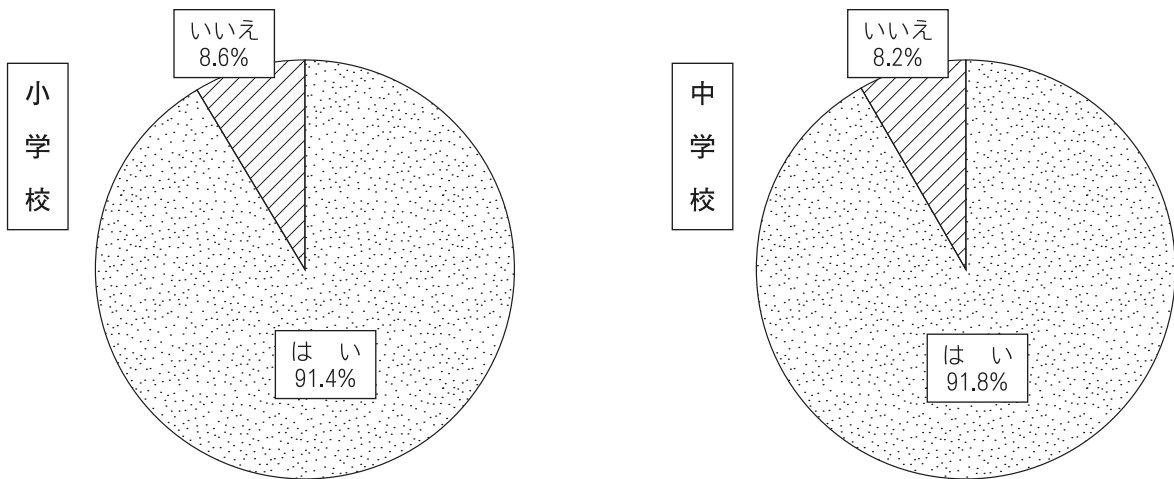


II 青年教員がいきいきと働くために

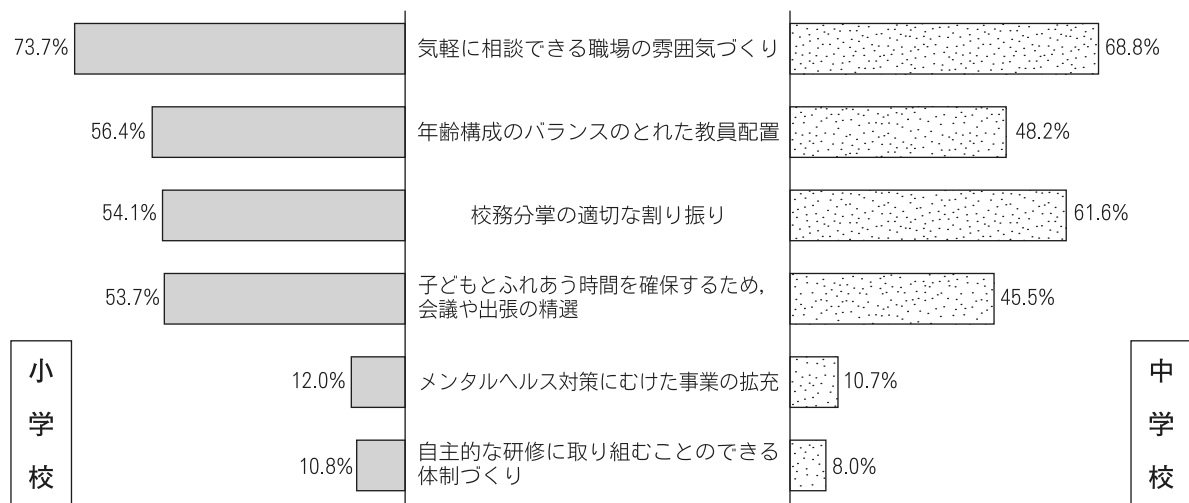
1 日々の教育活動を行う上での悩みや不安（複数回答可）



2 校内で悩みや不安を相談できるか

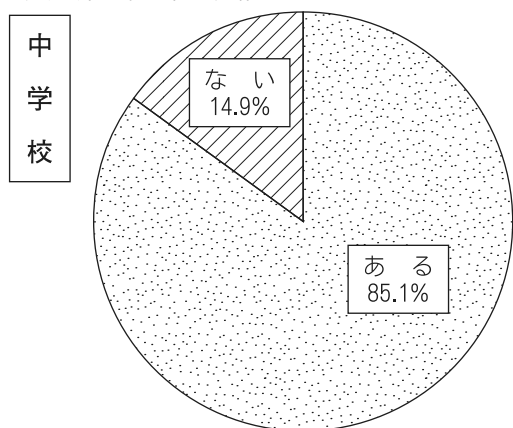


3 経験の少ない青年教員がサポートを得て、いきいきと働くために望むこと（複数回答可）

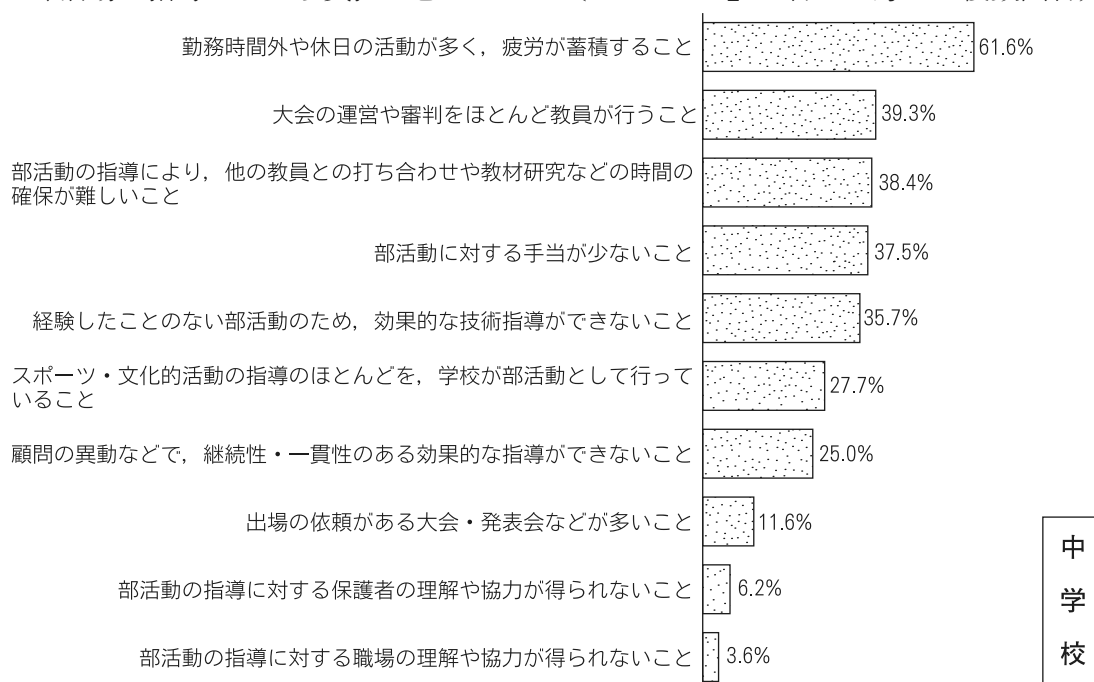


Ⅲ スポーツ・文化的活動のあり方について

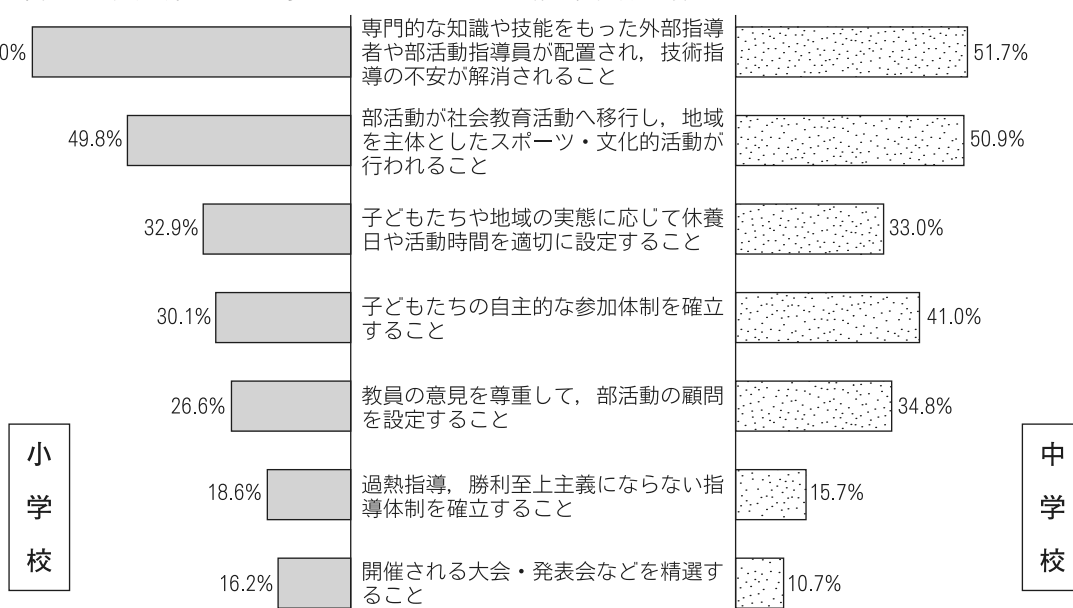
1 部活動の指導を負担に感じることもあるか（中学校のみ回答）



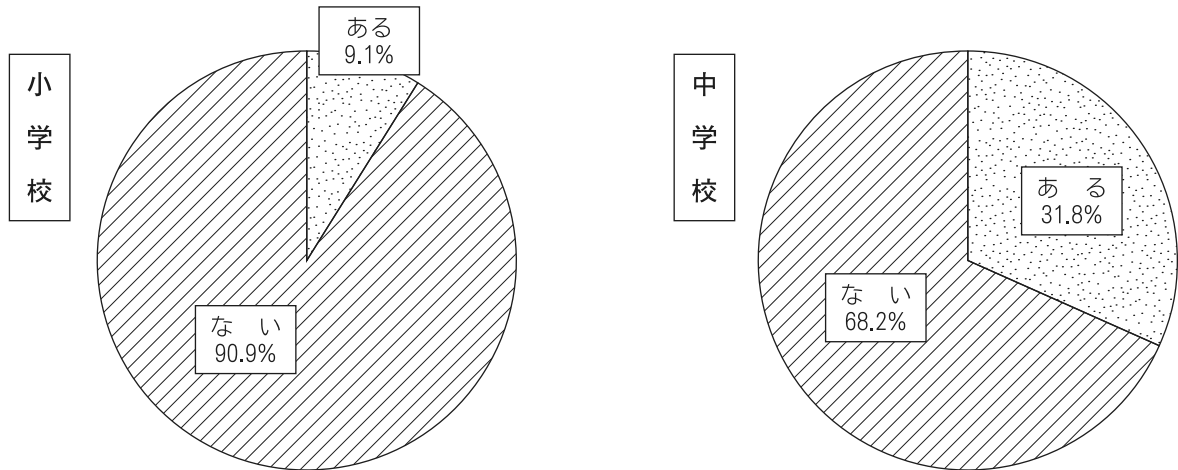
2 部活動の指導にあたり負担に感じること（1で「ある」と答えた方のみ複数回答）



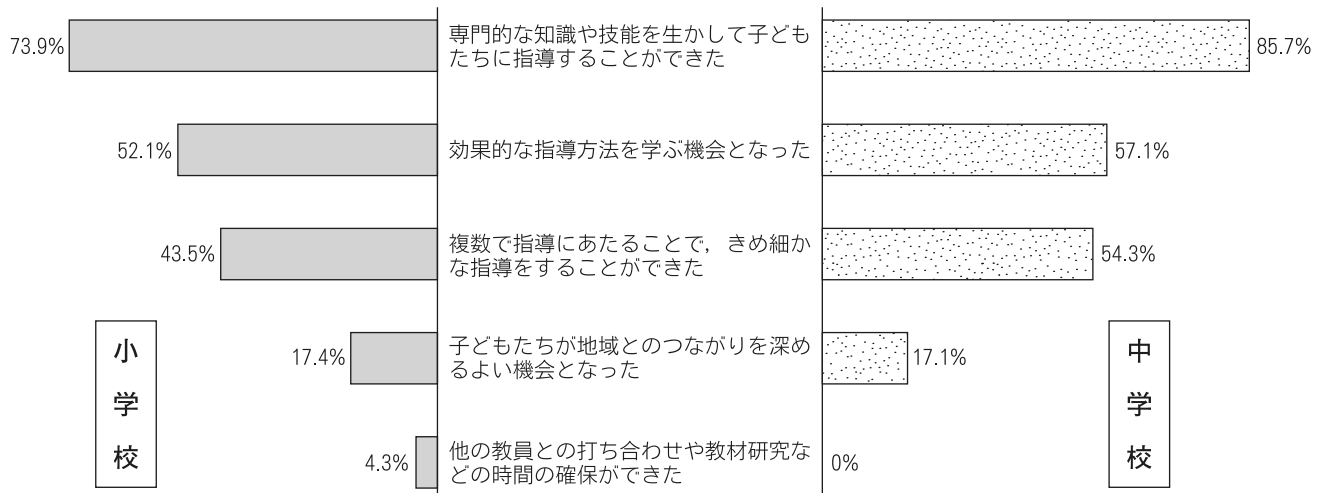
3 今後の部活動のあり方として望むこと（複数回答可）



4 外部指導者や部活動指導員と部活動の指導を行った経験の有無



5 外部指導者や部活動指導員がいたことでよかったこと
(4で「ある」と答えた方のみ複数回答)

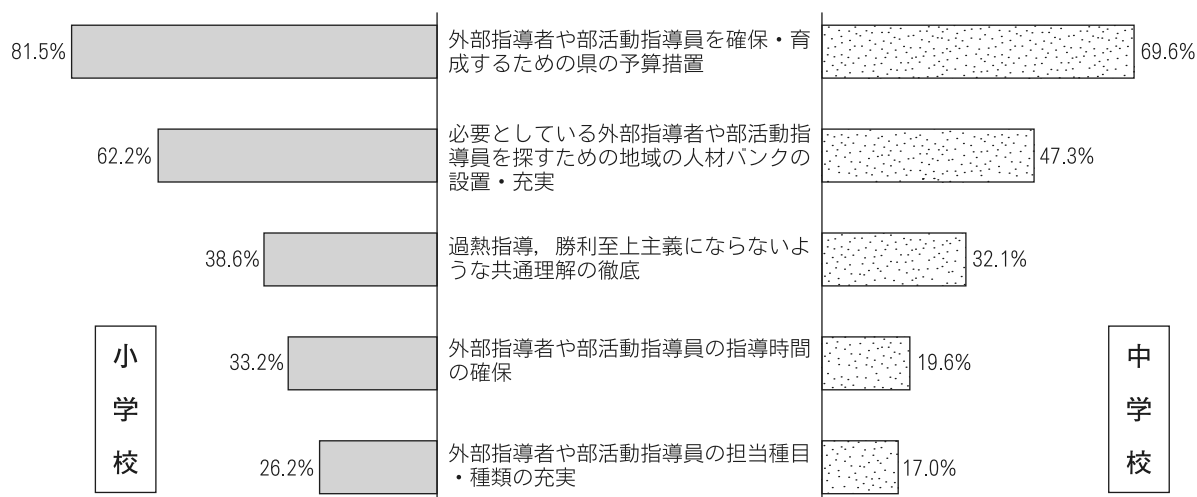


6 外部指導者や部活動指導員の配置、運用などについて、課題としてとらえていることや意見 (4で「ある」と答えた方のみ)

指導にかかる指導料。
 子どもとの信頼関係ができる前に児童生徒に強い指導をしており、児童が心を閉ざしてしまったこと。
 地域格差の解消。
 指導方針についての話し合いの場。
 休日・平日に関わらない練習メニューの作成を依頼したい。
 その方の身だしなみや生活態度が子どもに影響を与える。
 個人の人脈に関わる要素が大きく、組織的な対応が難しいこと。
 結局教員の部活動時間は変わらない。
 競技によって指導できる人材が少ない。
 学生の外部指導者は、学校の予定で来られない日が多い。
 コーチの参加頻度。
 指導者が複数いると、教え方が異なり生徒が困る。
 個人情報との関係で、全てを外部に任せるのは難しいと思う。
 外部の人と都合が合わない。

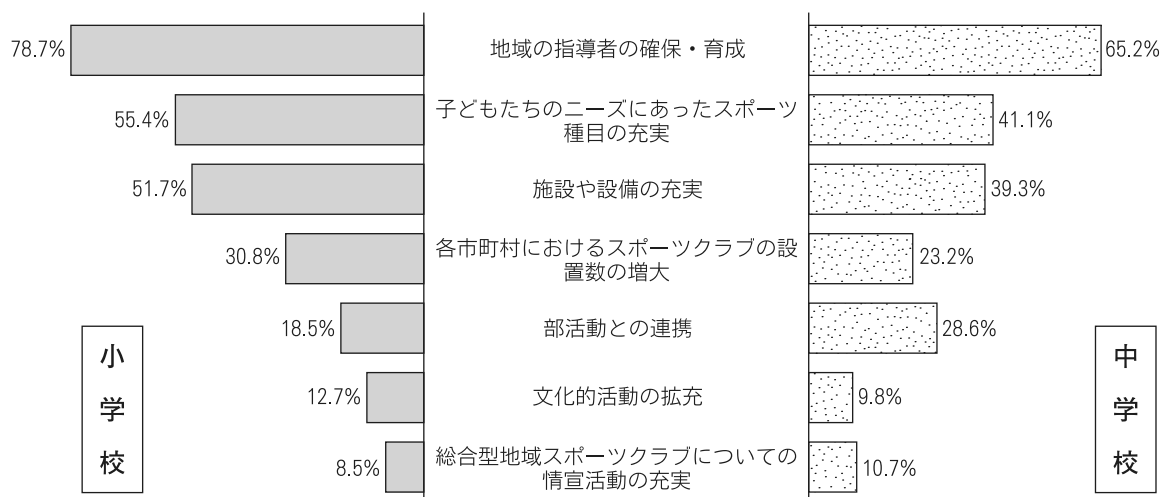
7 外部指導者や部活動指導員の配置にあたって、必要であると考えること

(複数回答可)

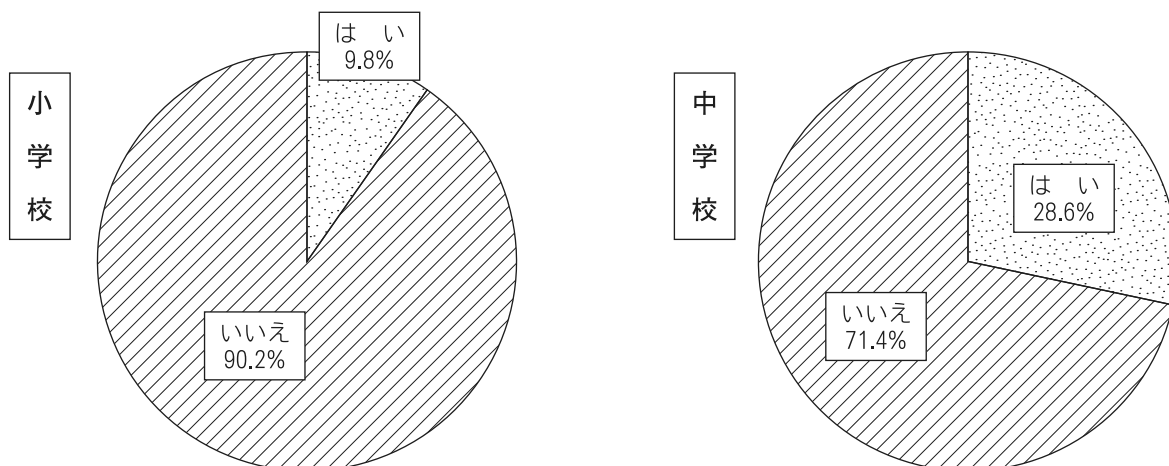


8 「総合型地域スポーツクラブ」の充実にむけて望むこと (複数回答可)

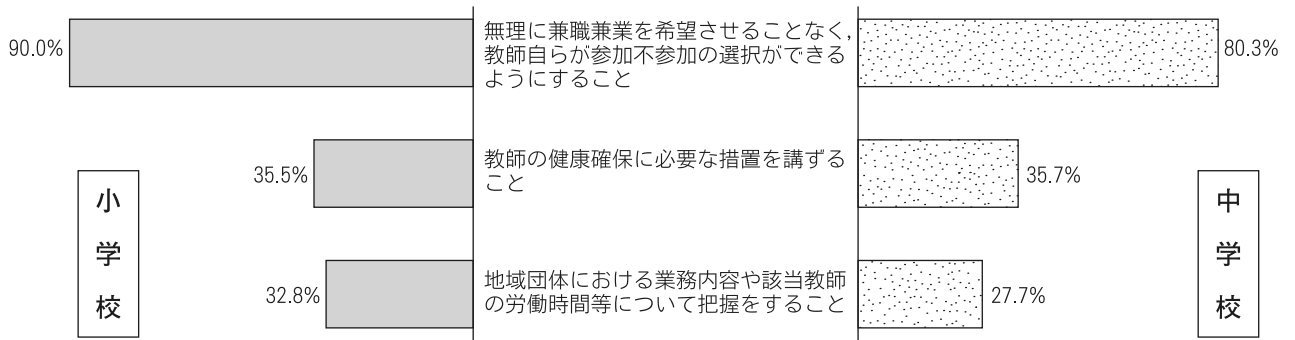
※愛知県では、2012年までに各市町村に最低1つは「総合型地域スポーツクラブ」を設立するという目標が立てられ、設置がすすめられてきました。2020年11月現在、名古屋市を除く53市町村中52市町村に設置されているものの、制度面・運用面においてまだまだ十分ではありません。



9 休日の部活動が地域部活動として地域移行した場合、あなたは兼職兼業の許可を得て、地域部活動の指導に携ろうと思うか



10 部活動の兼職兼業について、今後望むこと（複数回答可）



資 料

1 一宮市一般会計予算と教育予算の推移

(1) 一般会計予算と教育予算の推移

一般会計（単位千円）

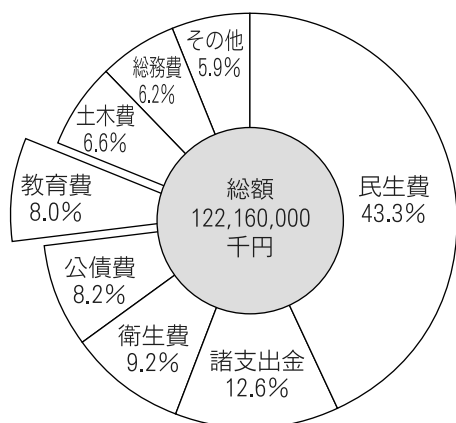
<2019年>
113,430,000
<2020年>
115,970,000
<2021年>
120,290,000
<2022年>
122,160,000



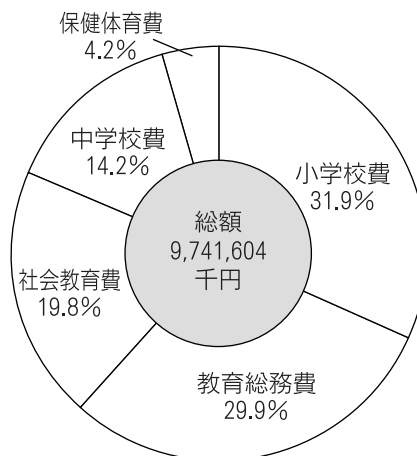
教育費（単位千円）

(2) 2022年度一般会計予算内訳

○ 一般会計予算内訳



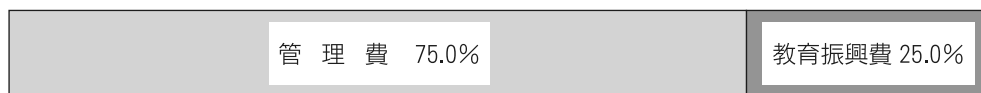
○ 教育費内訳



<小学校費の内訳>

総額 3,109,034 千円（昨年度 2,702,156千円）

児童一人当たり 約155千円（昨年度132千円）（単位千円）



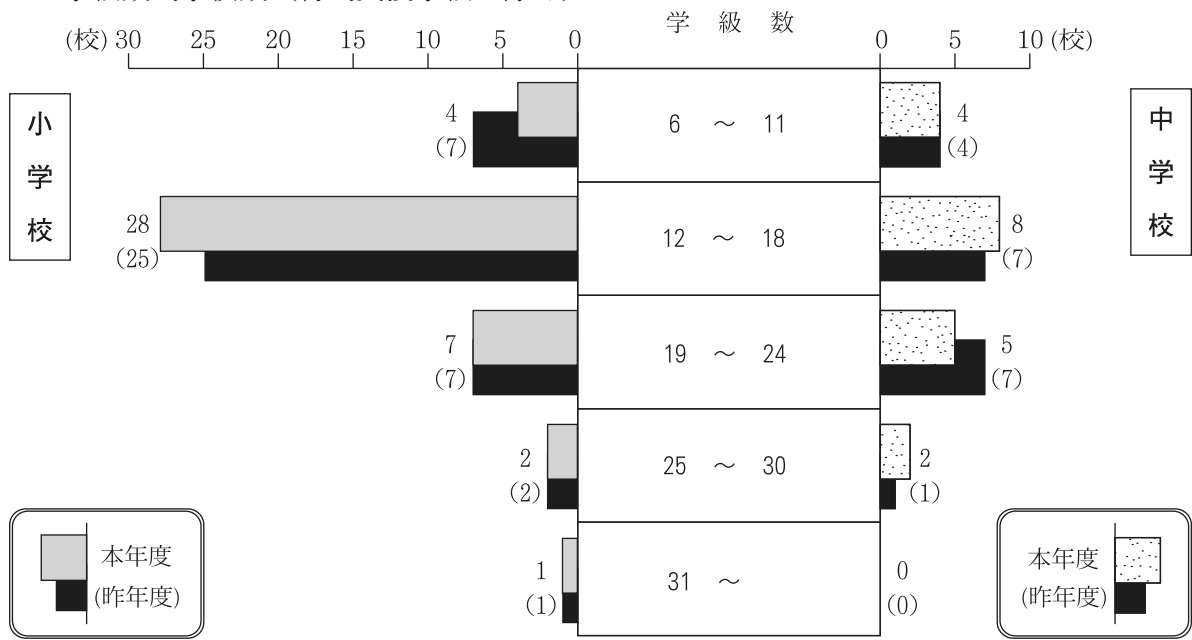
<中学校費の内訳>

総額 1,382,364 千円（昨年度 1,353,120千円）

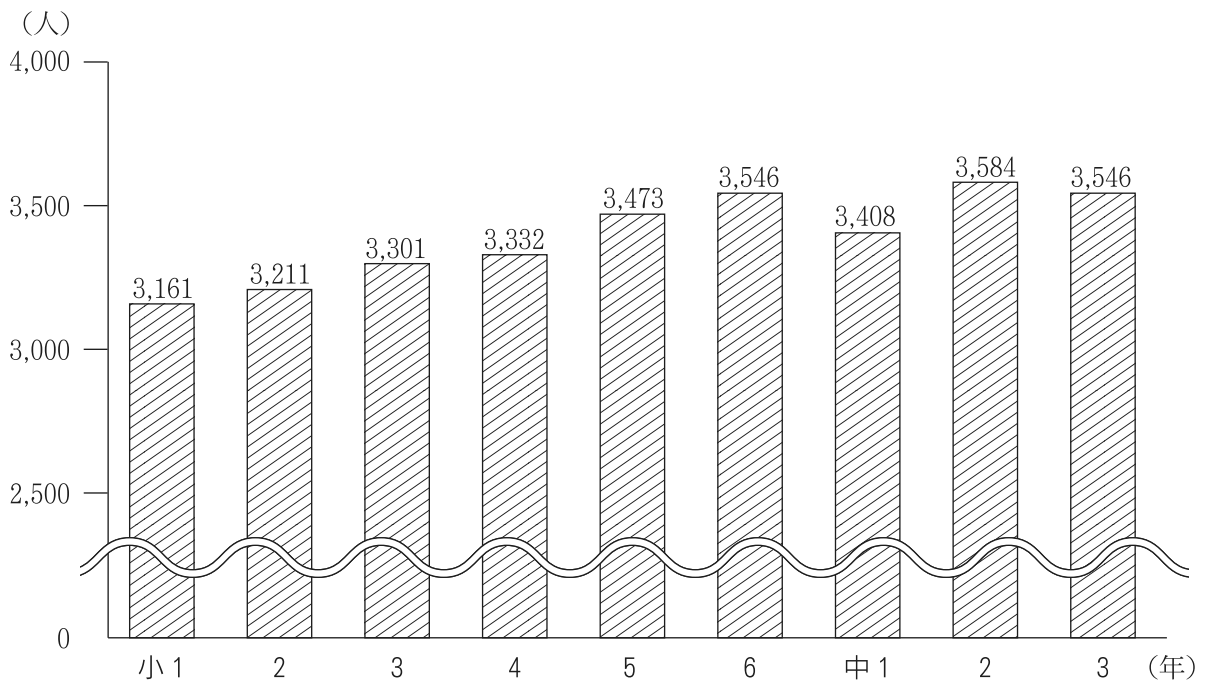
生徒一人当たり 約131千円（昨年度125千円）（単位千円）



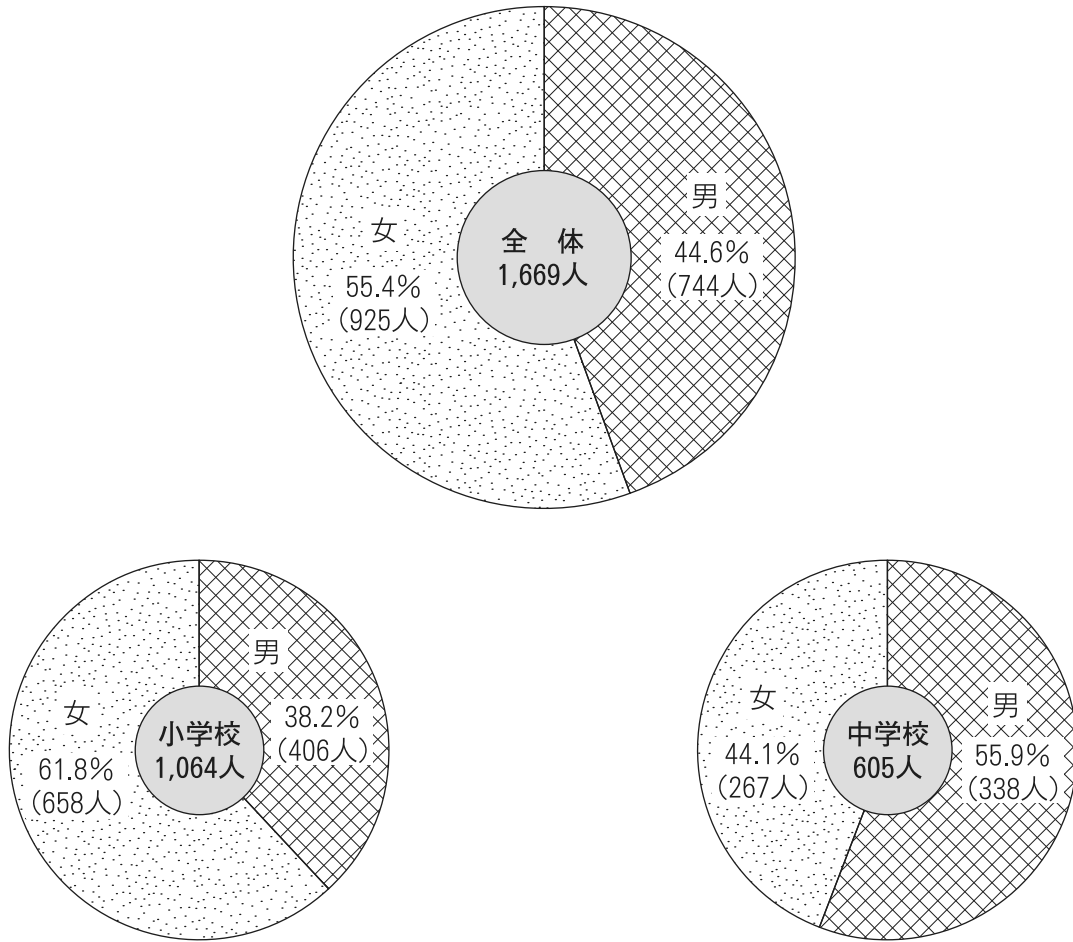
2 学級数別学校数（特別支援学級を除く）



3 学年別児童・生徒数



4 教員男女比



お わ り に

一宮の教育白書「ゆとりある ゆきとどいた 教育の実現にむけて」は、私たち組合員の実態・教育条件・予算などに関する内容をまとめ、日々の教育活動の充実を目的として、編集されてきました。具体的には、組合員一人一人へのアンケートをもとに、子どもたちに対する教育活動の実態、勤務時間を超えた仕事の状況、心身の健康状態などについて、明らかにしました。

この「2022年度 一宮の教育白書」が分会での学習資料として活用され、一宮の教育発展の足がかりになることを期待しています。また、一宮教組はこの白書をもとに、ゆとりある、ゆきとどいた教育の実現にむけて、関係機関に働きかけをしていきます。

なお、白書を作成するにあたって、組合員の皆様にはアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。白書委員一同、心よりお礼申し上げます。

2022年11月

一宮市教職員組合教財部長

日 置 祐 太

「2022年度 一宮の教育白書」編集委員

橋本 椋太 (大志小)	中村 大介 (丹陽中)
石井 将太 (丹陽西小)	三輪 洋介 (浅井中)
森 彩華 (奥小)	平岩 亜子 (萩原中)
	日置 祐太 (瀬部小)

<表紙絵によせて>

子どもたちの笑顔が、
今も、これからも
続くことを願って…

表紙デザイン 西本 佳菜未（今伊勢中）

2022年度 一宮の教育白書

編集発行 一宮市教職員組合

印刷所 (有)メディアポート

2022年11月 印刷

2022年12月 発行